

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第6597488号
(P6597488)

(45) 発行日 令和1年10月30日(2019.10.30)

(24) 登録日 令和1年10月11日(2019.10.11)

(51) Int.Cl.

A63F 7/02 (2006.01)

F 1

A 6 3 F 7/02 3 1 2 C

請求項の数 1 (全 38 頁)

(21) 出願番号 特願2016-120438 (P2016-120438)
 (22) 出願日 平成28年6月17日 (2016.6.17)
 (65) 公開番号 特開2017-221547 (P2017-221547A)
 (43) 公開日 平成29年12月21日 (2017.12.21)
 審査請求日 平成30年11月1日 (2018.11.1)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 390031783
 サミー株式会社
 東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不
 動産大崎ガーデンタワー
 (74) 代理人 100092897
 弁理士 大西 正悟
 (74) 代理人 100157417
 弁理士 並木 敏章
 (72) 発明者 伊藤 功次
 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシ
 ャイン60 サミー株式会社内
 (72) 発明者 深井 秀臣
 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシ
 ャイン60 サミー株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】弾球遊技機の遊技盤

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面側に遊技球を用いた遊技を行う遊技領域が設けられた弾球遊技機の遊技盤であって、

前記遊技領域の左側に設けられた遊技球が通過可能な入賞口を有する入賞装置と、
 前記遊技領域における前記入賞口の左側縁部の上方に配設された第1の遊技釘と、
 前記遊技領域における前記入賞口の右側縁部の上方に配設された第2の遊技釘と、
 前記遊技領域における前記第1の遊技釘の左上方に配設された第3の遊技釘と、
 前記遊技領域における前記第1の遊技釘の右上方かつ前記第2の遊技釘の左上方に配設
 された第4の遊技釘と、

前記遊技領域における前記第2の遊技釘の右上方に配設された第5の遊技釘と、

前記遊技領域における前記第3の遊技釘の上方に配設され、水平に対し右下方に傾斜す
 る方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、遊技球が当該複数の釘の上を落下移動
 するようにガイドする連釘とを備え、

前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊
 技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過することが可能であ
 り、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5
 の遊技釘との間を通過して落下する遊技球は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間
 、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間、前記第2の遊技釘と前記第5の遊技釘と
 の間のうちいずれかを通過するように構成され、

10

20

前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通って落下する遊技球は、前記第1の遊技釘、前記第2の遊技釘、前記第3の遊技釘、前記第4の遊技釘、および前記第5の遊技釘のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えることにより、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間を通過することが可能であり、

前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔は、遊技球の直径よりも大きい間隔であり、

前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔よりも大きい間隔であり、

前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間隔は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔よりも大きくて、遊技球の直径に半径を加えた長さより小さい間隔であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通って落下する遊技球は、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通って落下する遊技球よりも落下軌道が安定し、

前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間隔は、遊技球が通過し得る間隔であり、

前記第2の遊技釘と前記第5の遊技釘との間隔は、遊技球が通過し得る間隔であり、

前記遊技領域に、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間に遊技球が導かれるルートが2つ設けられ、

前記2つのルートのうちの1つは、前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球が左下方に落下する向きを変えて前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通過するルートであり、

前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球について、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過する遊技球の比率が、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通過する遊技球の比率より高いことを特徴とする弾球遊技機の遊技盤。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、弾球遊技機の遊技盤に関する。

【背景技術】

【0002】

弾球遊技機の一つであるぱちんこ遊技機は、遊技球による遊技を行う遊技領域が設けられた遊技盤を保持する枠部材に、払出装置および各種制御基板が装着された裏機構盤が取り付けられて構成される。そして、発射機構により遊技領域の上側に打ち出した遊技球を落下させる過程で、遊技領域内に設けた各種の入賞装置に入賞させる遊技が行われる。遊技領域には、複数の釘とともに、各種の入賞装置の他、遊技性を高めるためにセンター飾り、画像表示装置等が設けられる（例えば、特許文献1を参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2011-72821号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、このような弾球遊技機では、入賞装置に入賞するまでの遊技球の動きが単調になりがちであった。

【0005】

本発明は、このような課題に鑑みてなされたものであり、遊技球の動きを多様にして遊技性をより高めた弾球遊技機の遊技盤を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

このような目的達成のため、本発明に係る弾球遊技機の遊技盤は、前面側に遊技球を用

10

20

30

40

50

いた遊技を行う遊技領域が設けられた弾球遊技機の遊技盤であって、前記遊技領域の左側に設けられた遊技球が通過可能な入賞口を有する入賞装置（例えば、実施形態における左側一般入賞装置 513）と、前記遊技領域における前記入賞口の左側縁部の上方に配設された第1の遊技釘（例えば、実施形態における第1の左遊技釘 571）と、前記遊技領域における前記入賞口の右側縁部の上方に配設された第2の遊技釘（例えば、実施形態における第2の左遊技釘 572）と、前記遊技領域における前記第1の遊技釘の左上方に配設された第3の遊技釘（例えば、実施形態における第3の左遊技釘 573）と、前記遊技領域における前記第1の遊技釘の右上方かつ前記第2の遊技釘の左上方に配設された第4の遊技釘（例えば、実施形態における第4の左遊技釘 574）と、前記遊技領域における前記第2の遊技釘の右上方に配設された第5の遊技釘（例えば、実施形態における第5の左遊技釘 575）と、前記遊技領域における前記第3の遊技釘の上方に配設され、水平に対し右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、遊技球が当該複数の釘の上を落下移動するようにガイドする連釘（例えば、実施形態における第2上側連釘 562）とを備えている。そして、前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過することが可能であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過することによって落下する遊技球は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間、前記第2の遊技釘と前記第5の遊技釘との間のうちいずれかを通過するように構成され、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過することにより、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間を通過することが可能である。また、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔は、遊技球の直径よりも大きい間隔であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔よりも大きい間隔であり、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間隔は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔よりも大きくて、遊技球の直径に半径を加えた長さより小さい間隔であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通過して落下する遊技球は、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過して落下する遊技球よりも落下軌道が安定する。さらに、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間隔は、遊技球が通過し得る間隔であり、前記第2の遊技釘と前記第5の遊技釘との間隔は、遊技球が通過し得る間隔である。また、前記遊技領域に、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間に遊技球が導かれるルートが2つ設けられ、前記2つのルートのうちの1つは、前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球が左下方に落下する向きを変えて前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通過するルートであり、前記連釘にガイドされて右下方に落下する遊技球について、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通過する遊技球の比率が、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通過する遊技球の比率よりも高くなっている。

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、遊技球の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】ぱちんこ遊技機からガラス枠を取り外した状態を示す正面図である。

【図2】ガラス枠を前方から見た斜視図である。

【図3】ぱちんこ遊技機の背面図である。

【図4】第1実施形態に係る遊技盤の正面図である。

【図5】第1実施形態に係る遊技盤の分解斜視図である。

【図6】センター飾りの正面図である。

【図7】センター飾りの背面図である。

10

20

30

40

50

【図8】センター飾りを前方から見た分解斜視図である。

【図9】センター飾りを後方から見た分解斜視図である。

【図10】センター飾りにおけるワープ通路の近傍を示す断面図である。

【図11】(a)は第1飾り部材と第2飾り部材との連結部分を示す拡大図であり、(b)は第2飾り部材と第3飾り部材との連結部分を示す拡大図であり、(c)は第1飾り部材と第3飾り部材との連結部分を示す拡大図である。

【図12】第1入賞ユニットの斜視図である。

【図13】第1入賞ユニットを前方から見た分解斜視図である。

【図14】第1入賞ユニットを後方から見た分解斜視図である。

【図15】第1入賞ユニットの平断面図である。

10

【図16】(a)は第1入賞ユニットにおける左側一般入賞装置の側断面図であり、(b)は第1入賞ユニットにおける第1始動入賞装置の側断面図である。

【図17】(a)は第1入賞ユニットにおける第1排出通路の正断面図であり、(b)は第1入賞ユニットにおける第2排出通路の正断面図である。

【図18】(a)は第1入賞ユニットにおける第1出口通路の側断面図であり、(b)は第1入賞ユニットにおける第2出口通路の側断面図である。

【図19】第1実施形態に係る遊技盤における遊技領域の下部左側を示す正面拡大図である。

【図20】第1実施形態に係る遊技盤に設けられた釘の一例を示す平面図である。

【図21】第2実施形態に係る遊技盤の正面図である。

20

【図22】第2実施形態に係る遊技盤における遊技領域の下部左側を示す正面拡大図である。

【図23】第2実施形態に係る遊技盤における遊技領域の下部右側を示す正面拡大図である。

【図24】突出面構成部材の正面図である。

【図25】(a)は第2実施形態に係る遊技盤に設けられた釘の一例を示す平面図であり、(b)は第2実施形態に係る遊技盤に設けられた突出面構成部材を模式的に示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

30

以下、本発明の好ましい実施形態について図面を参照して説明する。第1実施形態に係る遊技盤を備えた弾球遊技機としてぱちんこ遊技機PMを図1～図3に示しており、まず、この図を参照してぱちんこ遊技機PMの全体構成について説明する。本実施形態において、図2の各矢印で示す方向をそれぞれ、上下方向、前後方向、左右方向として説明する。

【0010】

【ぱちんこ遊技機の全体構成】

始めに、ぱちんこ遊技機PMの前面側の基本構造を説明する。ぱちんこ遊技機PMは、図1に示すように、外郭方形枠サイズに構成された縦向きの固定保持枠をなす外枠1と、これに合わせた方形枠サイズに構成されて開閉搭載枠をなす前枠2とを主体に構成される。前枠2は、外枠1および前枠2の左側縁部に配設された上下のヒンジ機構3a, 3bにより、外枠1の前側開口部に対して横開き開閉および着脱が可能に取り付けられる。また、前枠2は、右側縁部に設けられたダブル錠と称される施錠装置4を利用して、常には外枠1と係合連結された閉鎖状態に保持される。

【0011】

前枠2の前面側には、図2に示すように、この前枠2の上部前面域に合わせた方形状のガラス枠5が上下のヒンジ機構3a, 3bを利用して横開き開閉および着脱可能に組み付けられる。ガラス枠5は、上述の施錠装置4を利用して、常には前枠2の前面を覆う閉鎖状態に保持される。図1に示すように、前枠2の上側に設けられた収容枠2aに遊技盤100が着脱可能にセット保持され、常には閉鎖保持されるガラス枠5の複層ガラス5aを

40

50

通して、遊技盤 100 の前面に設けられた遊技領域 PA1 を視認可能に臨ませるようになつている。なお、図 1 において遊技領域 PA1 の詳細な記載を省略している。

【 0012 】

図 2 に示すように、ガラス枠 5 の下部前面側には、遊技球を貯留する上下の球皿（上球皿 6a および下球皿 6b）が設けられる。ガラス枠 5 の上部前面側には、発光ダイオード（LED）やランプ等の電飾装置 7 や、遊技の展開状態に応じて効果音を発生させるスピーカ 8 が設けられる。

【 0013 】

図 1 に示すように、前枠 2 の右下部には、遊技球の発射操作を行う発射ハンドル 9 が設けられる。前枠 2 の下部におけるガラス枠 5 の後側の領域（以降、遊技補助盤 20 と称する）には、上球皿 6a に貯留された遊技球を 1 球ずつ送り出す整流器 21、整流器 21 から送り出された遊技球を遊技領域 PA1 に向けて打ち出す発射機構 22、発射機構 22 の作動を制御する発射制御基板 23 等が設けられる。

10

【 0014 】

続いて、ぱちんこ遊技機 PM の後面側の基本構造を説明する。図 3 に示すように、前枠 2 の後面側には、中央に前後連通する窓口を有して前枠 2 よりも幾分小型の矩形枠状に形成された裏機構盤 30 が取り付けられている。裏機構盤 30 の各部には、遊技施設側から供給される遊技球を貯留するタンク部材 33、タンク部材 33 から供給される遊技球を流下させる樋部材 34、樋部材 34 を流下する遊技球を払い出す賞球払出ユニット 35、賞球払出ユニット 35 から払い出された遊技球を上球皿 6a もしくは下球皿 6b に流下させる裏側通路部材 36 等が設けられている。また、裏機構盤 30 には、遊技盤 100 の後側を全体的に覆う遊技盤カバー 39 が取り付けられる。

20

【 0015 】

遊技盤 100 の後側には、ぱちんこ遊技機 PM の作動を統括的に制御する主制御基板（図示せず）や、遊技展開に応じた画像表示、効果照明、効果音等の演出全般の制御を行う副制御基板（図示せず）等が取り付けられている。これに対して、裏機構盤 30 の後側には、遊技球の払い出しに関する制御を行う払出制御基板 42 や、遊技施設側から受電して各種制御装置や電気・電子部品に電力を供給する電源基板 43 等が取り付けられている。これらの制御装置とぱちんこ遊技機 PM 各部の電気・電子部品とがハーネス（コネクタケーブル）で接続されて、ぱちんこ遊技機 PM が作動可能に構成されている。

30

【 0016 】

ぱちんこ遊技機 PM は、外枠 1 が遊技施設の遊技島（設置枠台）に固定設置され、前枠 2、ガラス枠 5 等が閉鎖施錠された状態で遊技に供され、上球皿 6a に遊技球を貯留させて発射ハンドル 9 を回動操作することにより遊技が開始される。発射ハンドル 9 が回動操作されると、上球皿 6a に貯留された遊技球が、整流器 21 によって 1 球ずつ発射機構 22 に送り出され、発射機構 22 により遊技領域 PA1 に打ち出されて、以降パチンコゲームが展開される。

【 0017 】

〔遊技盤の第 1 実施形態〕

次に、第 1 実施形態に係る遊技盤 100 の概要構成について、図 4～図 5 を参照して説明する。第 1 実施形態に係る遊技盤 100 は、図 4 に示すように、板状のベース部材 101 と、ベース部材 101 の前面側に取り付けられた内レール部材 106 および外レール部材 107 とを有し、ベース部材 101 の前面に、左側の領域が内レール部材 106 に囲まれるとともに、上側および右側の領域が外レール部材 107 に囲まれた遊技領域 PA1 が形成される。この遊技領域 PA1 には、複数の釘 111 や風車 112 とともに、遊技領域 PA1 の中央部近傍に配置されたセンター飾り 200 と、遊技領域 PA1 の下部左側に配置された 3 つの左側一般入賞装置 113, 113, ... と、遊技領域 PA1 の下部中央に配置された第 1 始動入賞装置 114 と、遊技領域 PA1 の下部右側に配置された、第 2 始動入賞装置 115、大入賞装置 116、右側一般入賞装置 117、および補助遊技始動ゲート 118 と、遊技領域 PA1 の下端に配置されたアウトロ 119 等が設けられる。

40

50

【0018】

ベース部材101は、図5に示すように、透明の樹脂材料を用いて板状に形成される。ベース部材101の略中央部にセンター飾り取付穴102が開口形成され、このセンター飾り取付穴102にセンター飾り200が取り付けられる。ベース部材101の下部左側から中央に亘り第1入賞装置取付穴103が開口形成され、ベース部材101の下部右側に第2入賞装置取付穴104が開口形成される。第1入賞装置取付穴103には、3つの左側一般入賞装置113、113、...および第1始動入賞装置114等がユニット化された第1入賞ユニット300が取り付けられる。第2入賞装置取付穴104には、第2始動入賞装置115、大入賞装置116、右側一般入賞装置117、および補助遊技始動ゲート118等がユニット化された第2入賞ユニット130が取り付けられる。

10

【0019】

なお、ベース部材101における第1入賞装置取付穴103の下端部と繋がった部分に、アウトロ119が形成される。また、ベース部材101の後面側に、画像表示装置121および上下の可動演出装置126、127等が取り付けられ、図4に示すように、センター飾り200の開口部分を通じて、画像表示装置121の画面および上下の可動演出装置126、127の前面側を前方から視認可能に構成されている。

【0020】

図4に示すように、外レール部材107は、下側が開いた円弧状に形成されており、発射機構22から発射された遊技球を遊技領域PA1へ導くようになっている。内レール部材106は、右側が開いた円弧状に形成されており、ベース部材101の前面において外レール部材107に対し右方に所定間隔を空けるように配設される。これにより、内レール部材106と外レール部材107との間に、発射機構22が設けられる側から遊技領域PA1の上部へと繋がる発射通路109が形成されるようになっている。

20

【0021】

[センター飾りの構成]

次に、センター飾り200について、図6～図11を参照して説明する。センター飾り200は、図6～図9に示すように、第1飾り部材201と、第2飾り部材211と、第3飾り部材221と、装飾カバー部材231と、第1ワープ通路部材241と、第2ワープ通路部材246と、ステージ部材251とを有して構成される。センター飾り200は、第1飾り部材201と、第2飾り部材211と、第3飾り部材221とを連結させることにより、内側が開口した円形枠状に形成される。

30

【0022】

第1飾り部材201は、図8～図9に示すように、樹脂材料を用いて円弧状に形成され、センター飾り200の左側部分および上側部分を構成する。第1飾り部材201の左下端部に、第3飾り部材221の左側第3結合部222と結合可能な左側第1結合部202が形成される。第1飾り部材201の右下端部に、第2飾り部材211の上側第2結合部212と結合可能な右側第1結合部203が形成される。

【0023】

第2飾り部材211は、樹脂材料を用いて円弧状に形成され、センター飾り200の右側部分を構成する。第2飾り部材211の上端部に、第1飾り部材201の右側第1結合部203と結合可能な上側第2結合部212が形成される。第2飾り部材211の下端部に、第3飾り部材221の右側第3結合部223と結合可能な下側第2結合部213が形成される。

40

【0024】

第3飾り部材221は、樹脂材料を用いて円弧状に形成され、センター飾り200の下側部分を構成する。第3飾り部材221の左上端部に、第1飾り部材201の左側第1結合部202と結合可能な左側第3結合部222が形成される。第3飾り部材221の右上端部に、第2飾り部材211の下側第2結合部213と結合可能な右側第3結合部223が形成される。

【0025】

50

第3飾り部材221の中央部後面側に、左右方向に延びる平面状のステージ取付部224が形成される。ステージ取付部224には、ネジ等の固定部材(図示せず)を用いてステージ部材251の前部が取り付け固定される。また、ステージ取付部224の中央上部に、ステージ部材251の案内溝部253の形状に合わせて切欠き部228が形成される。第3飾り部材221の左上部前面側に、平面状の第1ワープ通路取付部225が形成される。第1ワープ通路取付部225には、ネジ等の固定部材(図示せず)を用いて第1ワープ通路部材241が取り付け固定される。第3飾り部材221の左上部後面側に、水平に対し右下方に傾斜して延びるリブ状の第2ワープ通路取付部226が形成される。第2ワープ通路取付部226には、第1ワープ通路部材241と連結される第2ワープ通路部材246が取り付け支持される。また、第3飾り部材221の左上部後面側に、小枠状の第1センサ取付部227が形成される。第1センサ取付部227には、第1中央磁気センサ261が取り付け保持される。第1中央磁気センサ261は、第1ワープ通路部材241の近傍で生じた不正な磁気を検知可能に構成される。10

【0026】

装飾カバー部材231は、樹脂材料を用いて屈曲した板状に形成され、第3飾り部材221の後側を覆う後カバー部232と、第3飾り部材221の上方を覆う上カバー部234とを有して構成される。後カバー部232は、第3飾り部材221の外周形状に合わせた板状に形成され、ネジ等の結合部材(図示せず)を用いて第3飾り部材221の後側に重ねて結合される。上カバー部234は、後カバー部232の上端部から前方に延びる底状に形成され、第3飾り部材221およびステージ部材251の上方を覆うようになっている。後カバー部232の下部に、小枠状の第2磁気センサ取付部233が形成される。第2磁気センサ取付部233には、第2中央磁気センサ262が取り付け保持される。第2中央磁気センサ262は、ステージ部材251の近傍で生じた不正な磁気を検知可能に構成される。20

【0027】

第1ワープ通路部材241は、樹脂材料を用いて右下方に延びる管状に形成され、第3飾り部材221の第1ワープ通路取付部225に取り付け固定される。第1ワープ通路部材241の内側には、遊技球が通過可能な第1ワープ通路242が形成される(図10を参照)。第1ワープ通路242の上流端部は、左斜め上方を向いて開口形成され、遊技領域PA1の左側を落下する遊技球が通過できるようになっている。第1ワープ通路242の下流端部は、後方に折れ曲がるように形成され、第2ワープ通路部材246の第2ワープ通路247と繋がるようになっている。30

【0028】

第2ワープ通路部材246は、樹脂材料を用いて右下方に延びる管状に形成され、装飾カバー部材231の後カバー部232と第3飾り部材221とに挟持された状態で、第3飾り部材221の第2ワープ通路取付部226に取り付け支持される。第2ワープ通路部材246の内側には、遊技球が通過可能な第2ワープ通路247が形成される。第2ワープ通路247の上流端部は、前方に折れ曲がるように形成され、第1ワープ通路242の下流端部と繋がるようになっている。第2ワープ通路247の下流端部は、ステージ部材251のステージ部252に向けて開口形成され、第1ワープ通路242および第2ワープ通路247を通過した遊技球がステージ部252の上に落下するようになっている。40

【0029】

ステージ部材251は、樹脂材料を用いて屈曲した板状に形成され、第3飾り部材221のステージ取付部224に取り付け固定される。ステージ部材251の上部には、第1ワープ通路242および第2ワープ通路247を通過した遊技球を左右方向に転がり移動させてから前方に落下させることが可能なステージ部252が形成される。ステージ部252の中央部前側には、ステージ部252の中央部で停止した遊技球が第1始動入賞装置114の第1始動入賞口114aに向けて落下するように案内する案内溝部253が形成される。なお、ステージ部252の中央部は、ステージ部252の左右の中間部よりも山形状に高くなるように形成される。そのため、ステージ部252を左右方向に転がり移動50

した遊技球がステージ部 252 の中央部ではなく左右の中間部で停止した場合、当該遊技球は停止した左方もしくは右方の中間部より第 1 始動入賞装置 114 の左方もしくは右方に向けて落下するようになっている。このとき、ステージ部 252 の左方の中間部から落下した遊技球は、詳細は後述するが第 4 上側連釘 164 まで落下すると、第 4 上側連釘 164 の上を右下方に落下移動して第 1 始動入賞装置 114 の第 1 始動入賞口 114a を通過し得るようになっている（図 19 を参照）。

【 0030 】

前述したように、第 1 飾り部材 201 と、第 2 飾り部材 211 と、第 3 飾り部材 221 とが連結してセンター飾り 200 が形成される。第 1 飾り部材 201 の右側第 1 結合部 203 と第 2 飾り部材 211 の上側第 2 結合部 212 とが結合した状態で、第 1 飾り部材 201 と第 2 飾り部材 211 とが連結される。このとき、図 11 (a) に示すように、上側第 2 結合部 212 の前面側に重なって右側第 1 結合部 203 が結合されるようになっている。また、第 2 飾り部材 211 の下側第 2 結合部 213 と第 3 飾り部材 221 の右側第 3 結合部 223 とが結合した状態で、第 2 飾り部材 211 と第 3 飾り部材 221 とが連結される。このとき、図 11 (b) に示すように、右側第 3 結合部 223 の前面側に重なって下側第 2 結合部 213 が結合されるようになっている。また、第 1 飾り部材 201 の左側第 1 結合部 202 と第 3 飾り部材 221 の左側第 3 結合部 222 とが結合した状態で、第 1 飾り部材 201 と第 3 飾り部材 221 とが連結される。このとき、図 11 (c) に示すように、左側第 3 結合部 222 の前面側に重なって左側第 1 結合部 202 が結合されるようになっている。

【 0031 】

第 1 飾り部材 201 と、第 2 飾り部材 211 と、第 3 飾り部材 221 とを連結させるには、まず、第 3 飾り部材 221 を作業台等（図示せず）の上に（前面を向けて）載置した状態で、第 3 飾り部材 221 の右側第 3 結合部 223 の前面側に第 2 飾り部材 211 の下側第 2 結合部 213 を重ねるように結合させて、第 2 飾り部材 211 と第 3 飾り部材 221 とを連結させる。そして、第 2 飾り部材 211 の上側第 2 結合部 212 の前面側に第 1 飾り部材 201 の右側第 1 結合部 203 を重ねるように結合させて、第 1 飾り部材 201 と第 2 飾り部材 211 とを連結させるとともに、第 3 飾り部材 221 の左側第 3 結合部 222 の前面側に第 1 飾り部材 201 の左側第 1 結合部 202 を重ねるように結合させて、第 1 飾り部材 201 と第 3 飾り部材 221 とを連結させる。このように、第 3 飾り部材 221、第 2 飾り部材 211、第 1 飾り部材 201 の順で連結させる場合のみ、第 1 飾り部材 201 と、第 2 飾り部材 211 と、第 3 飾り部材 221 とを正しい向きで連結させることができるために、製造等において、センター飾り 200 を容易で正確に組み立てることが可能になる。

【 0032 】

一般的に、組み立ての際に後に組み付けられる部品ほど、加工誤差等の累積により位置精度が低下する傾向がある。ステージ部材 251 が取り付けられる第 3 飾り部材 221 は、第 1 始動入賞装置 114 への入球（入賞）に最も大きく関与する部品であり、位置精度の低下を防止するため、センター飾り 200 の組み立ての際に最初に組み付けられる。また、第 2 飾り部材 211 は、第 2 始動入賞装置 115 や大入賞装置 116 等の出玉に影響のある遊技部品の近くに配置されており、位置精度の低下を防止するため、センター飾り 200 の組み立ての際に二番目に（第 1 飾り部材 201 よりも先に）組み付けられる。

【 0033 】

なお、第 1 飾り部材 201 の右側第 1 結合部 203 と第 2 飾り部材 211 の上側第 2 結合部 212 とは、入れ子式に結合されるため、結合部分の周辺が薄肉となり破損しやすい。そのため、遊技領域 PA1 の右上部において、第 1 飾り部材 201 の右側第 1 結合部 203 と第 2 飾り部材 211 の上側第 2 結合部 212 との結合部分の近傍に、釘または風車等の遊技部材が設けられるようにしてもよい。このようにすれば、遊技領域 PA1 の右上部を落下する遊技球が、釘または風車等の遊技部材によって、第 1 飾り部材 201 の右側第 1 結合部 203 と第 2 飾り部材 211 の上側第 2 結合部 212 との結合部分に直接的に

10

20

30

40

50

当接し難くなるため、センター飾り 200 が破損するのを防止することができる。

【0034】

[第1入賞ユニットの構成]

次に、第1入賞ユニット 300 について、図12～図18を参照して説明する。第1入賞ユニット 300 は、図12～図14に示すように、3つの左側一般入賞装置 113, 113, ... と、第1始動入賞装置 114 と、ガイド部材 301 と、ベースプレート 311 と、第1排出通路部材 321 と、第1通路カバー部材 331 と、第2排出通路部材 341 と、第2通路カバー部材 351 とを有して構成される。

【0035】

3つの左側一般入賞装置 113, 113, ... は、ベースプレート 311 に形成された3つの一般入賞装置取付部 314, 314, ... に、左右方向に並ぶように取り付けられる。左側一般入賞装置 113 は、樹脂材料を用いて、上部および後部が開口して遊技球が入球可能な箱状に形成される。左側一般入賞装置 113 の上部に、遊技領域 PA1 の下部左側を落下する遊技球が通過可能な左側一般入賞口 113a が形成される。

10

【0036】

第1始動入賞装置 114 は、ベースプレート 311 に形成された始動入賞装置取付部 316 に、3つの左側一般入賞装置 113, 113, ... の右方に並んで取り付けられる。第1始動入賞装置 114 は、透明もしくは半透明の樹脂材料を用いて、上部および後部が開口して遊技球が入球可能な箱状に形成される。第1始動入賞装置 114 の上部に、遊技領域 PA1 の下部中央を落下する遊技球が通過可能な第1始動入賞口 114a が形成される。

20

【0037】

ガイド部材 301 は、ベースプレート 311 に形成されたガイド部材取付部 312 に、3つの左側一般入賞装置 113, 113, ... の左方に並んで取り付けられる。これにより、ガイド部材 301 は、遊技領域 PA1 の下部左側における風車 112 の下方に配置される。ガイド部材 301 は、透明もしくは半透明の樹脂材料を用いて、後部が開口した箱状に形成される。ガイド部材 301 の上部に、水平に対し右下方に傾斜した平面状の傾斜面 302 が形成される。

【0038】

ベースプレート 311 は、図13～図14に示すように、樹脂材料を用いて板状に形成される。ベースプレート 311 は、ネジ等の固定部材(図示せず)を用いて、ベース部材 101 の第1入賞装置取付穴 103 を覆うように、ベース部材 101 の前面側に取り付け固定される。ベースプレート 311 の前面左側に、枠面状のガイド部材取付部 312 が形成される。ガイド部材取付部 312 には、ネジ等の固定部材(図示せず)を用いてガイド部材 301 が取り付け固定される。ベースプレート 311 の前面左側におけるガイド部材取付部 312 の内周側に、爪状のランプ保持部 313 が形成される。ランプ保持部 313 には、保留球の数を表示可能な表示ランプ 366 が取り付け保持される。表示ランプ 366 は、ガイド部材 301 に覆われるようになっている。

30

【0039】

ベースプレート 311 の前面中間部に、3つの一般入賞装置取付部 314 が左右方向に並んで形成される。3つの一般入賞装置取付部 314 には、ネジ等の固定部材(図示せず)を用いて、3つの左側一般入賞装置 113, 113, ... が取り付け固定される。ベースプレート 311 における一般入賞装置取付部 314 の上部に、U字形に切り欠かれた3つの一般入賞球通過口 315, 315, ... が形成される。一般入賞球通過口 315 は、左側一般入賞装置 113 の後部開口部と位置整合して形成され、左側一般入賞口 113a を通って左側一般入賞装置 113 に入球した遊技球が後方の一般入賞球通過口 315 を通過して、第1排出通路部材 321 に形成された第1球排出通路 322 に落入するようになっている(図15および図16(a)を参照)。

40

【0040】

ベースプレート 311 の前面右側に、枠面状の始動入賞装置取付部 316 が形成される

50

。始動入賞装置取付部 316 には、ネジ等の固定部材（図示せず）を用いて、第1始動入賞装置 114 が取り付け固定される。ベースプレート 311 における始動入賞装置取付部 316 の上部に、U字形に切り欠かれた始動入賞球通過口 317 が形成される。始動入賞球通過口 317 は、第1始動入賞装置 114 の後部開口部と位置整合して形成され、第1始動入賞口 114a を通って第1始動入賞装置 114 に入球した遊技球が後方の始動入賞球通過口 317 を通過して、第2排出通路部材 341 に形成された第2球排出通路 342 に落入するようになっている（図 16 (b) を参照）。

【0041】

ベースプレート 311 における始動入賞装置取付部 316 の内周側に、リブ状のランプ取付部 318 が形成される。ランプ取付部 318 には、ネジ等の固定部材（図示せず）を用いて、第1始動入賞装置 114 の発光装飾を行うための装飾ランプ基板 361 が取り付け固定される。装飾ランプ基板 361 は、第1始動入賞装置 114 に覆われるようになっている（図 15 を参照）。ベースプレート 311 の後面左側に、小枠状の第1磁気センサ取付部 319 が形成される。第1磁気センサ取付部 319 には、第1下部磁気センサ 376 が取り付け保持される。第1下部磁気センサ 376 は、ガイド部材 301 の近傍で生じた不正な磁気を検知可能に構成される。

【0042】

第1排出通路部材 321 は、図 13 ~ 図 14 に示すように、樹脂材料を用いて右下方に延びる管状に形成され、ネジ等の固定部材（図示せず）を用いて、ベースプレート 311 の後面中間部に取り付け固定される。第1排出通路部材 321 の内側に、遊技球が通過可能な第1球排出通路 322 が形成される。第1球排出通路 322 の上流端部は、3つに分岐して上方を向くように開口形成され、左側一般入賞装置 113 に入球して一般入賞球通過口 315 から落下する遊技球が通過するようになっている（図 16 (a) および図 17 (a) を参照）。第1球排出通路 322 の下流端部は、後方に折れ曲がるように形成され、第1通路カバー部材 331 の第1出口通路 332 と繋がるようになっている（図 18 (a) を参照）。

【0043】

第1排出通路部材 321 の下面部右側に、小枠状の一般入賞センサ取付部 323 が形成される。一般入賞センサ取付部 323 には、左側一般入賞センサ 113s の本体部（基端側）が取り付け保持される（図 17 (a) および図 18 (a) を参照）。第1排出通路部材 321 の下面部中央に、小枠状の第2磁気センサ取付部 325 が形成される。第2磁気センサ取付部 325 には、第2下部磁気センサ 377 が取り付け保持される（図 16 (a) および図 17 (a) を参照）。第2下部磁気センサ 377 は、左側一般入賞装置 113 の近傍で生じた不正な磁気を検知可能に構成される。第1排出通路部材 321 の後面部左側に、小枠状の電波センサ取付部 324 が形成される。電波センサ取付部 324 には、電波センサ 371 が取り付けられる。電波センサ 371 は、左側一般入賞装置 113 の近傍で生じた不正な電波を検知可能に構成される。

【0044】

第1通路カバー部材 331 は、図 13 ~ 図 14 に示すように、樹脂材料を用いて板状に形成され、ネジ等の結合部材（図示せず）を用いて、第1排出通路部材 321 の後側に重ねて結合される。第1通路カバー部材 331 の左側に、第1排出通路部材 321 の電波センサ取付部 324 に取り付けられた電波センサ 371 を覆う電波センサカバー部 334 が形成される。なお、第1通路カバー部材 331 の右端部は、内側に第1出口通路 332 を有して上下方向に延びる管状に形成される。図 18 (a) に示すように、第1出口通路 332 の上流端部は、前方に折れ曲がるように形成され、第1球排出通路 322 の下流端部と繋がるようになっている。第1出口通路 332 の下流端部は、下方を向いて開口形成され、第1球排出通路 322 および第1出口通路 332 を通過した遊技球が遊技盤 100 の後方に排出されて落下するようになっている。第1通路カバー部材 331 における第1出口通路 332 の下流端部近傍に、溝状の一般入賞センサ保持部 333 が形成される。一般入賞センサ保持部 333 には、左側一般入賞センサ 113s の検出部（先端側）が取り付

10

20

30

40

50

け保持される。左側一般入賞センサ 113s は、3 つの左側一般入賞装置 113, 113, ... のうちいずれか一つに入球（入賞）して第 1 出口通路 332 を通過する遊技球を検出可能に構成される。

【 0045 】

第 2 排出通路部材 341 は、図 13 ~ 図 14 に示すように、樹脂材料を用いて L 字形に延びる管状に形成され、ネジ等の固定部材（図示せず）を用いて、ベースプレート 311 の後面右側に取り付け固定される。第 2 排出通路部材 341 の内側に、遊技球が通過可能な第 2 球排出通路 342 が形成される。第 2 球排出通路 342 の上流端部は、上方を向いて開口形成され、第 1 始動入賞装置 114 に入球して始動入賞球通過口 317 から落下する遊技球が通過するようになっている（図 16 (b) および図 17 (b) を参照）。第 2 球排出通路 342 の下流端部は、後方に折れ曲がるように形成され、第 2 通路カバー部材 351 の第 2 出口通路 352 と繋がるようになっている（図 18 (b) を参照）。

【 0046 】

第 2 排出通路部材 341 の上部に、小枠状の始動入賞センサ取付部 343 が形成される。始動入賞センサ取付部 343 には、第 1 始動入賞センサ 114s が取り付け保持される（図 16 (b) および図 17 (b) を参照）。第 1 始動入賞センサ 114s は、第 1 始動入賞装置 114 に入球（入賞）して第 2 球排出通路 342 を通過する遊技球を検出可能に構成される。第 2 排出通路部材 341 の上部左側に、第 3 磁気センサ取付部 344 が形成される。第 3 磁気センサ取付部 344 には、第 3 下部磁気センサ 378 が取り付け保持される（図 17 (b) を参照）。第 3 下部磁気センサ 378 は、第 1 始動入賞装置 114 の近傍で生じた不正な磁気を検知可能に構成される。

【 0047 】

第 2 通路カバー部材 351 は、図 13 ~ 図 14 に示すように、樹脂材料を用いて板状に形成され、ネジ等の結合部材（図示せず）を用いて、第 2 排出通路部材 341 の後側に重ねて結合される。なお、第 2 通路カバー部材 351 の右端部は、内側に第 2 出口通路 352 を有して上下方向に延びる管状に形成される。図 18 (b) に示すように、第 2 出口通路 352 の上流端部は、前方に折れ曲がるように形成され、第 2 球排出通路 342 の下流端部と繋がるようになっている。第 2 出口通路 352 の下流端部は、下方を向いて開口形成され、第 2 球排出通路 342 および第 2 出口通路 352 を通過した遊技球が遊技盤 100 の後方に排出されて落下するようになっている。

【 0048 】

以上のように構成される第 1 入賞ユニット 300 は、ベース部材 101 の第 1 入賞装置取付穴 103 に対して前方から取り付けられる。このとき、ベースプレート 311 の後面側に取り付けられた第 1 排出通路部材 321、第 1 通路カバー部材 331、第 2 排出通路部材 341、および第 2 通路カバー部材 351 は、第 1 入賞装置取付穴 103 の内側に配置されるようになっている。これにより、ベース部材 101 の第 1 入賞装置取付穴 103 の形状を変更することなく、ベースプレート 311、左側一般入賞装置 113、第 1 始動入賞装置 114 等のデザインのみを変更することが可能になり、低コストで、多種多様なデザインの遊技盤を容易に設計することができる。また、第 1 排出通路部材 321、第 1 通路カバー部材 331、第 2 排出通路部材 341、および第 2 通路カバー部材 351 が、第 1 入賞装置取付穴 103 の内側に配置されるため、ベース部材 101 の後面側で空いたスペースを、可動演出装置の設置スペースや配線スペース等として活用することができる。

【 0049 】

なお、遊技領域 PA1 の下部左側を落下する遊技球が、3 つの左側一般入賞装置 113, 113, ... のうちいずれか一つに入球（入賞）すると、左側一般入賞装置 113 の内部および一般入賞球通過口 315 を通過して、第 1 球排出通路 322 における 3 つに分岐した上流端部のうちいずれか一つに落入し、第 1 球排出通路 322 および第 1 出口通路 332 を通過して遊技盤 100 の後方に排出される。また、遊技領域 PA1 の下部中央を落下する遊技球が、第 1 始動入賞装置 114 に入球（入賞）すると、第 1 始動入賞装置 114

10

20

30

40

50

の内部および始動入賞球通過口 317 を通過して、第2球排出通路 342 の上流端部に落入り、第2球排出通路 342 および第2出口通路 352 を通過して遊技盤 100 の後方に排出される。このように、複数の左側一般入賞装置 113, 113, ... に対して1つの第1球排出通路 322 (および第1出口通路 332) が合流するように設けられることで、第1排出通路部材 321 (および第1通路カバー部材 331) を小型化することができ、左側一般入賞装置のデザインの変更等 (例えば、左側一般入賞装置の個数の変更等) を容易に行うことができる。

【0050】

また、ベースプレートの前面中間部には、複数の左側一般入賞装置に限らず、少なくとも一つの左側一般入賞装置と、第2のアウトロードとが設けられるようにしてもよい。このようにすれば、出玉率を容易に変更することが可能になる。なおこの場合、ベースプレートの後面側に、前述と同様の第1球排出通路 (および第1出口通路) が設けられ、ベースプレートの前面側に、第2のアウトロードを通過した遊技球をアウトロード 119 に合流させるアウトロード合流通路が設けられるようにしてもよい。

10

【0051】

[ガイド部材の近傍の釘等の配置]

次に、遊技領域 PA1 の左側における釘 111 および風車 112 等の配置について、図 19 ~ 図 20 を参照して説明する。各釘 111 は、図 20 に示すように、ベース部材 101 の前面 (遊技領域を構成する盤面) に対して概ね垂直な方向に立設され、ベース部材 101 の前面から板状の複層ガラス 5a の後面近傍まで延びるように形成される。なお、「概ね垂直」とは、釘 111 がベース部材 101 の前面に対して垂直な場合に加え、釘 111 がベース部材 101 の前面に対して垂直よりも僅かに傾斜している場合を含むものとする。また、以降で述べる「連釘」とは、遊技領域 PA1 に直線的に並んで配置された少なくとも 2 本以上の釘 111 から構成されたものである。また、ベース部材 101 における遊技領域 PA1 の前面と、ベース部材 101 の前方に所定間隔 (遊技球 B が通過可能な間隔) を置いて配置された複層ガラス 5a の後面との間に、遊技領域 PA1 の前面において遊技球 B が落下可能な遊技空間 S1 が形成される。

20

【0052】

釘 111 は、円柱状に形成された胴部 111a と、胴部 111a の一端に傘状に形成された頭部 111b とを有して構成される。そして、遊技領域 PA1 を落下する遊技球 B が釘 111 に当接する場合、釘 111 の胴部 111a に当接するようになっている。以降の各実施形態において、釘 111 同士の間隔は、各釘 111 の胴部 111a の間隔 D (例えば、各釘 111 の頭部 111b に近接する胴部 111a の外周面同士の間隔) を示すものとする。

30

【0053】

風車 112 は、遊技領域 PA1 の左側 (センター飾り 200 の左方) に回転自在に設けられ、遊技領域 PA1 の左側を落下する遊技球 B が風車 112 に当接すると、遊技球 B の落下する向きが変化し得るように構成される。前述したように、ガイド部材 301 は、遊技領域 PA1 の下部左側における風車 112 の下方に配置される。これにより、遊技領域 PA1 における風車 112 の左方を通って落下する遊技球 B (図 19 の左側の破線矢印を参照) が、ガイド部材 301 の傾斜面 302 に沿って (右下方に) 落下移動できるようになっている。

40

【0054】

遊技領域 PA1 の下部左側におけるガイド部材 301 の傾斜面 302 の右下方に、第1下側連釘 151 が配置される。第1下側連釘 151 は、水平に対し右下方に傾斜する方向 (第1始動入賞装置 114 に向かう方向) に直線的に並ぶ 3 本の釘 (111) から構成される。第1下側連釘 151 は、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B がこの 3 本の釘 (111) の上を落下移動するようにガイドする。なお、第1下側連釘 151 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔 (例えば、遊技球 B の半径以下の間隔) に設定される。また、ガイド部材 301

50

の傾斜面 302 の水平に対する傾斜角度は、第 1 下側連釘 151 が直線的に並ぶ方向（図 19 の二点鎖線に沿った方向）の傾斜角度よりも緩い角度に設定される。

【0055】

なお、第 1 下側連釘 151 が直線的に並ぶ方向の傾斜角度は、図 19 の二点鎖線で示すように、第 1 下側連釘 151 の左上端部に位置する釘と、第 1 下側連釘 151 の左上端部から数えて 2 番目に位置する釘とを通る直線の水平に対する傾斜角度を示すものとする。また、第 1 下側連釘 151 が直線的に並ぶ方向の傾斜角度は、第 1 下側連釘 151 の左上端部に位置する釘と、第 1 下側連釘 151 の右下端部に位置する釘とを通る直線の水平に対する傾斜角度を示すものとしてもよい。

【0056】

遊技領域 PA1 の下部左側における第 1 下側連釘 151 の右下方に、第 2 下側連釘 152 が配置される。第 2 下側連釘 152 は、第 1 下側連釘 151 と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ 3 本の釘（111）から構成される。第 2 下側連釘 152 は、遊技球 B がこの 3 本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第 2 下側連釘 152 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球 B の半径以下の間隔）に設定される。また、第 1 下側連釘 151（右下端部に位置する釘）と、第 2 下側連釘 152（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。

【0057】

遊技領域 PA1 の下部左側における第 2 下側連釘 152 の右下方に、第 3 下側連釘 153 が配置される。第 3 下側連釘 153 は、第 1 下側連釘 151 と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ 3 本の釘（111）から構成される。第 3 下側連釘 153 は、遊技球 B がこの 3 本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第 3 下側連釘 153 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球 B の半径以下の間隔）に設定される。また、第 2 下側連釘 152（右下端部に位置する釘）と、第 3 下側連釘 153（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。

【0058】

遊技領域 PA1 の下部左側における第 3 下側連釘 153 の右下方に、第 4 下側連釘 154 が配置される。第 4 下側連釘 154 は、第 1 下側連釘 151 と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ 4 本の釘（111）から構成される。第 4 下側連釘 154 は、遊技球 B がこの 4 本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第 4 下側連釘 154 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球 B の半径以下の間隔）に設定される。また、第 3 下側連釘 153（右下端部に位置する釘）と、第 4 下側連釘 154（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。

【0059】

遊技領域 PA1 の下部左側における第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 の上方かつ風車 112 の下方に、第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 が配置される。第 1 上側連釘 161 は、遊技領域 PA1 の下部左側における風車 112 の右下方に配置される。第 1 上側連釘 161 は、水平に対し右下方に傾斜する方向（第 1 始動入賞装置 114 に向かう方向）に直線的に並ぶ 3 本の釘（111）から構成される。第 1 上側連釘 161 は、遊技領域 PA1 における風車 112 の右方を通って落下する遊技球 B（図 19 の右側の破線矢印を参照）がこの 3 本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第 1 上側連釘 161 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球 B の半径以下の間隔）に設定される。また、第 1 上側連釘 161 は、第 1 下側連釘 151 の上方に略平行に設けられ、第 1 下側連釘 151 と第 1 上側連釘 1

10

20

30

40

50

6 1との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔）に設定される。

【0060】

第2上側連釘162は、遊技領域PA1の下部左側における第1上側連釘161の右下方に配置される。第2上側連釘162は、第1上側連釘161と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ3本の釘（111）から構成される。第2上側連釘162は、遊技球Bがこの3本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第2上側連釘162を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球Bの半径以下の間隔）に設定される。また、第1上側連釘161（右下端部に位置する釘）と、第2上側連釘162（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。また、第2上側連釘162は、第2下側連釘152の上方に略平行に設けられ、第2下側連釘152と第2上側連釘162との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔）に設定される。10

【0061】

第3上側連釘163は、遊技領域PA1の下部左側における第2上側連釘162の右下方に配置される。第3上側連釘163は、第1上側連釘161と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ3本の釘（111）から構成される。第3上側連釘163は、遊技球Bがこの3本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第3上側連釘163を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球Bの半径以下の間隔）に設定される。また、第2上側連釘162（右下端部に位置する釘）と、第3上側連釘163（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。また、第3上側連釘163は、第3下側連釘153の上方に略平行に設けられ、第3下側連釘153と第3上側連釘163との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔）に設定される。20

【0062】

第4上側連釘164は、遊技領域PA1の下部左側における第3上側連釘163の右下方に配置される。第4上側連釘164は、第1上側連釘161と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ7本の釘（111）から構成される。第4上側連釘164は、遊技球Bがこの7本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。なお、第4上側連釘164を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球Bの半径以下の間隔）に設定される。また、第3上側連釘163（右下端部に位置する釘）と、第4上側連釘164（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。また、第4上側連釘164は、第4下側連釘154の上方に略平行に設けられ、第4下側連釘154と第4上側連釘164との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔）に設定される。30

【0063】

前述したように、遊技領域PA1における風車112の右方を通って落下する遊技球Bは、第1上側連釘161まで落下すると、第1上側連釘161にガイドされて右下方に落下移動する。なお、第1上側連釘161の上を右下方に落下移動する遊技球Bは、第1～第4上側連釘161～164の間隙部を通って落下しない限り、さらに第2～第4上側連釘162～164の上を右下方に落下移動することが可能である。

【0064】

一方、遊技領域PA1における風車112の左方を通って落下する遊技球Bは、ガイド部材301の傾斜面302まで落下し、当該傾斜面302に沿って右下方に落下移動する40

ことができる。そして、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B は、第 1 下側連釘 151 にガイドされて、少なくとも、第 1 下側連釘 151 と第 1 上側連釘 161 との間を通って落下移動することができるよう構成される。これにより、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B は、第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 の間隙部を通って落下しない限り、第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 を構成するいずれかの釘と、第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 を構成するいずれかの釘とに当接して上下に弾むように、第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 と第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 との間を落下移動することが可能になる。そのため、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B の動きに変化を持たせることが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

10

【0065】

なお、第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 の下方に 3 つの左側一般入賞装置 113, 113, ... が配置される。第 1 ~ 第 4 下側連釘 151 ~ 154 におけるいずれかの間隙部を通って落下する遊技球 B は、3 つの左側一般入賞装置 113, 113, ... うちいずれかの左側一般入賞口 113a を通過し得るようになっている。また、第 4 下側連釘 154 から右下方に落下する遊技球 B は、第 1 始動入賞装置 114 の第 1 始動入賞口 114a よりも下方に落下するため、第 1 始動入賞装置 114 に入球（入賞）するのが非常に困難である。但し、遊技領域 PA1 における第 1 始動入賞装置 114 の下方に隣接して、第 2 始動入賞装置もしくは大入賞装置等の開閉型入賞装置が設けられる場合には、第 4 下側連釘 154 から右下方に落下する遊技球 B が当該開閉型入賞装置に入球（入賞）し得るように構成されてもよい。

20

【0066】

また、遊技球 B が通過し得る 3 つの間隙部を介して、第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 が設けられているが、これに限られるものではなく、遊技球が通過し得る 1 つの間隙部を介して、2 つの上側連釘が設けられるようにもよく、遊技球が通過し得る間隙部を無くして、1 つの長い上側連釘が設けられるようにもよい。また、第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 を構成する釘（111）の一部を、遊技領域 PA1 の前面に対して傾斜するジャンプ釘とし、第 1 ~ 第 4 上側連釘 161 ~ 164 の上を落下移動する遊技球 B が当該ジャンプ釘に当接すると、センター飾り 200 のステージ部 252 に向けて弾んでステージ部 252 の上に乗ることができるように構成されてもよい。

30

【0067】

【第 1 実施形態における特徴構成】

【ガイド部材の近傍の釘等の特徴構成】

本実施形態において、ガイド部材 301 の傾斜面 302 の傾斜角度は、第 1 下側連釘 151 が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定され、傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B が、遊技領域 PA1 における第 1 下側連釘 151 と第 1 上側連釘 161 との間を通って落下移動することができるよう構成される。このように、ガイド部材 301 の傾斜面 302 の傾斜角度は、第 1 下側連釘 151 が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定されるため、遊技球 B が傾斜面 302 から深く落ち込む形で第 1 下側連釘 151 の上に落下する。そのため、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から第 1 下側連釘 151 の上方に飛び出して落下する遊技球 B が第 1 下側連釘 151 の上で弾み易くなったり、傾斜面 302 と第 1 下側連釘 151 との傾斜角度の差により遊技球 B の落下移動速度が変化したりすることで、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B の動きに変化を持たせることができ、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

40

【0068】

また、第 1 上側連釘 161 は、遊技領域 PA1 における第 1 下側連釘 151 の上方に略平行に設けられ、第 1 下側連釘 151 と第 1 上側連釘 161 との間隔は、遊技球 B の直径よりも大きく遊技球 B の直径の 2 倍よりも小さい間隔に設定される。これにより、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B は、第 1 下側連釘 151 を構成

50

するいずれかの釘 111 と、第 1 上側連釘 161 を構成するいずれかの釘 111 とに当接して上下に弾むように、第 1 下側連釘 151 と第 1 上側連釘 161 との間を落下移動することが可能になる。このようにして、ガイド部材 301 の傾斜面 302 から右下方に落下する遊技球 B の動きに変化を持たせることができ、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

【 0 0 6 9 】

[遊技盤の第 2 実施形態]

次に、第 2 実施形態に係る遊技盤 500 の概要構成について、図 21 を参照して説明する。第 2 実施形態に係る遊技盤 500 は、ベース部材 501 と、内レール部材 106 および外レール部材 107 を有し、ベース部材 501 の前面に、左側の領域が内レール部材 106 に囲まれるとともに、上側および右側の領域が外レール部材 107 に囲まれた遊技領域 PA2 が形成される。この遊技領域 PA2 には、複数の釘 111 や風車 112 とともに、遊技領域 PA2 の中央部近傍に配置されたセンター飾り 520 と、遊技領域 PA2 の下部左側に配置された 2 つの左側一般入賞装置 513, 513 と、遊技領域 PA2 の下部中央に配置された第 1 始動入賞装置 514 と、遊技領域 PA2 の下部右側に配置された、第 2 始動入賞装置 515、大入賞装置 516、右側一般入賞装置 517、および補助遊技始動ゲート 518 と、遊技領域 PA2 の下端に配置されたアウトロ 519 等が設けられる。

【 0 0 7 0 】

ベース部材 501 は、第 1 実施形態のベース部材 101 と同様に形成される。第 1 実施形態と同様、ベース部材 501 に開口形成された各取付穴（図示せず）に、センター飾り 520、左側一般入賞装置 513、第 1 始動入賞装置 514、第 2 始動入賞装置 515、大入賞装置 516、右側一般入賞装置 517、および補助遊技始動ゲート 518 等が取り付けられる。ベース部材 501 の後面側に、リール型演出装置 521 が取り付けられ、センター飾り 520 の開口部分を通じて、リール型演出装置 521 の各リールを前方から観認可能に構成されている。

【 0 0 7 1 】

なお、内レール部材 106 および外レール部材 107 と、発射通路 109 については、第 1 実施形態と同様の構成であり、第 1 実施形態の場合と同じ符号を付して詳細な説明を省略する。また、釘 111 および風車 112 については、第 1 実施形態と同様の形状であり、第 1 実施形態の場合と同じ符号を付して各部の説明を省略する。また、遊技領域 PA2 の下部左側には、第 1 実施形態のガイド部材 301 と同様に構成された傾斜面 527 を有するガイド部材 526 が設けられる。

【 0 0 7 2 】

[ガイド部材の近傍の釘等の配置]

次に、遊技領域 PA2 の左側における釘 111 および風車 112 等の配置について、図 21 および図 22 を参照して説明する。各釘 111 は、第 1 実施形態と同様に、ベース部材 501 の前面（遊技領域を構成する盤面）に対して概ね垂直な方向に立設され、ベース部材 501 の前面から板状の複層ガラス 5a の後面近傍まで延びるように形成される。また、ベース部材 501 における遊技領域 PA2 の前面と、ベース部材 501 の前方に所定間隔（遊技球 B が通過可能な間隔）を置いて配置された複層ガラス 5a の後面との間に、遊技領域 PA2 の前面において遊技球 B が落下可能な遊技空間 S2 が形成される（図 25 (a) を参照）。

【 0 0 7 3 】

風車 112 は、第 1 実施形態と同様に、遊技領域 PA2 の左側（センター飾り 520 の左方）に回転自在に設けられる。ガイド部材 526 は、遊技領域 PA2 の下部左側における風車 112 の下方に配置される。これにより、遊技領域 PA2 における風車 112 の左方を通って落下する遊技球 B が、ガイド部材 526 の傾斜面 527 に沿って（右下方に）落下移動できるようになっている。

【 0 0 7 4 】

10

20

30

40

50

遊技領域PA2の下部左側におけるガイド部材526の傾斜面527の右下方に、第1下側連釘551が配置される。第1下側連釘551は、水平に対し右下方に傾斜する方向(第1始動入賞装置514に向かう方向)に直線的に並ぶ3本の釘(111)から構成される。第1下側連釘551は、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bがこの3本の釘(111)の上を落下移動するようにガイドする。なお、第1下側連釘551を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔(例えば、遊技球Bの半径以下の間隔)に設定される。また、ガイド部材526の傾斜面527の水平に対する傾斜角度は、第1下側連釘551が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定される。

【0075】

10

遊技領域PA2の下部左側における第1下側連釘551の右下方に、第2下側連釘552が配置される。第2下側連釘552は、第1下側連釘551と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ5本の釘(111)から構成される。第2下側連釘552は、遊技球Bがこの5本の釘(111)の上を落下移動するようにガイドする。なお、第2下側連釘552を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔(例えば、遊技球Bの半径以下の間隔)に設定される。また、第1下側連釘551(右下端部に位置する釘)と、第2下側連釘552(左上端部に位置する釘)との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔(例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔)に設定される。

【0076】

20

遊技領域PA2の下部左側における第1～第2下側連釘551～552の上方かつ風車112の下方に、第1～第3上側連釘561～563が配置される。第1上側連釘561は、遊技領域PA2の下部左側における風車112の右下方に配置される。第1上側連釘561は、水平に対し右下方に傾斜する方向(第1始動入賞装置514に向かう方向)に直線的に並ぶ6本の釘(111)から構成される。第1上側連釘561は、遊技領域PA2における風車112の右方を通って落下する遊技球Bがこの6本の釘(111)の上を落下移動するようにガイドする。なお、第1上側連釘561を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔(例えば、遊技球Bの半径以下の間隔)に設定される。また、第1上側連釘561は、第1下側連釘551の上方に略平行に設けられ、第1下側連釘551と第1上側連釘561との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔(例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔)に設定される。

【0077】

30

第2上側連釘562は、遊技領域PA2の下部左側における第1上側連釘561の右下方に配置される。第2上側連釘562は、第1上側連釘561と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ10本の釘(111)から構成される。第2上側連釘562は、遊技球Bがこの10本の釘(111)の上を落下移動するようにガイドする。なお、第2上側連釘562を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔(例えば、遊技球Bの半径以下の間隔)に設定される。また、第1上側連釘561(右下端部に位置する釘)と、第2上側連釘562(左上端部に位置する釘)との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔(例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔)に設定される。また、第2上側連釘562は、第2下側連釘552の上方に略平行に設けられ、第2下側連釘552と第2上側連釘562との上下方向の間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔(例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔)に設定される。

【0078】

40

第3上側連釘563は、遊技領域PA2の下部左側における第2上側連釘562の右下方に配置される。第3上側連釘563は、第1上側連釘561と同じく右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ7本の釘(111)から構成される。第3上側連釘563は、遊技球Bがこの7本の釘(111)の上を落下移動するようにガイドする。なお、第3上側連釘

50

563を構成する釘同士の間隔は、遊技球Bが通らず、遊技球Bが乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球Bの半径以下の間隔）に設定される。また、第2上側連釘562（右下端部に位置する釘）と、第3上側連釘563（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球Bが通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球Bの直径よりも大きくて、遊技球Bの直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第2上側連釘562（右下端部に位置する釘）と、第3上側連釘563（左上端部に位置する釘）との間隔は12.00mmに設定される。なお、各実施形態において、遊技球Bの直径は11.00mmに設定される。

【0079】

前述したように、遊技領域PA2における風車112の右方を通って落下する遊技球Bは、第1上側連釘561まで落下すると、第1上側連釘561にガイドされて右下方に落下移動する。なお、第1上側連釘561の上を右下方に落下移動する遊技球Bは、第1～第3上側連釘561～563の間隙部を通って落下しない限り、さらに第2～第3上側連釘562～563の上を右下方に落下移動することが可能である。

10

【0080】

一方、遊技領域PA2における風車112の左方を通って落下する遊技球Bは、ガイド部材526の傾斜面527まで落下し、当該傾斜面527に沿って右下方に落下移動することができる。そして、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bは、第1下側連釘551にガイドされて、少なくとも、第1下側連釘551と第1上側連釘561との間を通って落下移動することができるよう構成される。これにより、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bは、第1～第2下側連釘551～552の間隙部を通って落下しない限り、第1～第2下側連釘551～552を構成するいずれかの釘と、第1～第2上側連釘561～562を構成するいずれかの釘とに当接して上下に弾むように、第1～第2下側連釘551～552と第1～第2上側連釘561～562との間を落下移動することが可能になる。そのため、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bの動きに変化を持たせることができ、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

20

【0081】

なお、第1～第2下側連釘551～552の下方に2つの左側一般入賞装置513, 513が配置される。左側一般入賞装置513の上部には、遊技領域PA2の下部左側を落下する遊技球が通過可能な左側一般入賞口513aが形成される。第1下側連釘551と第2下側連釘552との間隙部を通って落下する遊技球Bは、2つのうち左方の左側一般入賞装置513に形成された左側一般入賞口513aを通過可能に構成される。一方、第2下側連釘552まで達して第2下側連釘552の右下方に落下する遊技球Bは、2つのうち右方の左側一般入賞装置513に形成された左側一般入賞口513aを通過可能に構成される。

30

【0082】

【左側一般入賞装置の近傍の釘等の配置】

次に、遊技領域PA2における右方の左側一般入賞口513aの上方に配置される釘111について、図22を参照して説明する。遊技領域PA2における右方の左側一般入賞口513aの左側縁部の上方近傍に、第1の左遊技釘571が配置される。遊技領域PA2における右方の左側一般入賞口513aの右側縁部の上方近傍に、第1の左遊技釘571と同じ高さ位置で第2の左遊技釘572が配置される。遊技領域PA2における第1の左遊技釘571の左上方に、第3の左遊技釘573が配置される。遊技領域PA2における第1の左遊技釘571の右上方かつ第2の左遊技釘572の左上方に、第3の左遊技釘573と同じ高さ位置で第4の左遊技釘574が配置される。遊技領域PA2における第2の左遊技釘572の右上方に、第3の左遊技釘573と同じ高さ位置で第5の左遊技釘575が配置される。第1～第5の左遊技釘571～575はそれぞれ、1本の釘（111）から構成される。

40

【0083】

50

遊技領域 P A 2 における第 3 の左遊技釘 5 7 3 の左上方近傍に、前述の第 2 下側連釘 5 5 2 が配置される。さらに、遊技領域 P A 2 における第 3 の左遊技釘 5 7 3 の上方（且つ、第 2 下側連釘 5 5 2 の上方）に、前述の第 2 上側連釘 5 6 2 が配置される。遊技領域 P A 2 における第 5 の左遊技釘 5 7 5 の上方（且つ、第 2 上側連釘 5 6 2 の右下方）に、前述の第 3 上側連釘 5 6 3 が配置される。

【 0 0 8 4 】

そして、遊技領域 P A 2 における第 2 上側連釘 5 6 2 と第 3 上側連釘 5 6 3 との間を通って落下する遊技球 B は、第 3 の左遊技釘 5 7 3 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間、もしくは第 4 の左遊技釘 5 7 4 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間を通るように構成される。第 3 の左遊技釘 5 7 3 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 3 の左遊技釘 5 7 3 との間、第 2 の左遊技釘 5 7 2 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間のうちいずれかを通るように構成される。一方、第 4 の左遊技釘 5 7 4 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間、第 2 の左遊技釘 5 7 2 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 3 の左遊技釘 5 7 3 との間のうちいずれかを通るように構成される。

【 0 0 8 5 】

また、第 3 の左遊技釘 5 7 3 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 5 7 1 、第 2 の左遊技釘 5 7 2 、第 3 の左遊技釘 5 7 3 、および第 4 の左遊技釘 5 7 4 のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えることにより、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間を通ることが可能となるように構成される。一方、第 4 の左遊技釘 5 7 4 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 5 7 1 、第 2 の左遊技釘 5 7 2 、第 4 の左遊技釘 5 7 4 、および第 5 の左遊技釘 5 7 5 のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えることにより、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間を通ることが可能となるように構成される。

【 0 0 8 6 】

なお、遊技領域 P A 2 における第 4 の左遊技釘 5 7 4 の上方近傍に、第 2 上側連釘 5 6 2 と第 3 上側連釘 5 6 3 との間を通って落下する遊技球 B が直接的に第 4 の左遊技釘 5 7 4 に当接するのを防ぐ緩衝釘 5 7 6 が配置される。緩衝釘 5 7 6 は、1 本の釘（1 1 1 ）から構成される。第 2 上側連釘 5 6 2 と第 3 上側連釘 5 6 3 との間を通って落下する遊技球 B が緩衝釘 5 7 6 に当接することで、遊技球 B が断続的に当接することにより第 4 の左遊技釘 5 7 4 が傾くように変位するのを防ぎ、第 1 ～ 第 5 の左遊技釘 5 7 1 ～ 5 7 5 の間隔を一定に保つことができる。

【 0 0 8 7 】

第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（遊技球 B の直径よりも大きい間隔）に設定される。具体例として、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間隔は 1 1 . 5 0 m m に設定される。第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 3 の左遊技釘 5 7 3 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間隔よりも大きい間隔）に設定される。具体例として、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 3 の左遊技釘 5 7 3 との間隔は 1 4 . 0 0 m m に設定される。第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 3 の左遊技釘 5 7 3 との間隔よりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間隔は 1 1 . 5 0 m m に設定される。

【 0 0 8 8 】

第 2 の左遊技釘 5 7 2 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第 1 の左遊技釘 5 7 1 と第 2 の左遊技釘 5 7 2 との間隔よりも大きい間隔）に設定される。具体例として、第 2 の左遊技釘 5 7 2 と第 5 の左遊技釘 5 7 5 との間隔は 1 4 . 0 0 m m に設定される。第 2 の左遊技釘 5 7 2 と第 4 の左遊技釘 5 7 4 との間隔は、遊

10

20

30

40

50

技球 B が通過し得る所定の間隔（第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔よりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第 2 の左遊技釘 572 と第 4 の左遊技釘 574 との間隔は 11.50 mm に設定される。

【0089】

第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間隔よりも大きくて、第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔よりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間隔は 14.40 mm に設定される。第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間隔よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さより小さい間隔）に設定される。具体例として、第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔は 15.26 mm に設定される。

10

【0090】

緩衝釘 576 と第 2 上側連釘 562（右下端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（遊技球 B の直径よりも大きい間隔）に設定される。具体例として、緩衝釘 576 と第 2 上側連釘 562（右下端部に位置する釘）との間隔は 11.71 mm に設定される。緩衝釘 576 と第 3 上側連釘 563（左上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（遊技球 B の直径よりも大きい間隔）に設定される。具体例として、緩衝釘 576 と第 3 上側連釘 563（左上端部に位置する釘）との間隔は 15.47 mm に設定される。

20

【0091】

前述したように、遊技領域 PA2 における第 2 上側連釘 562 と第 3 上側連釘 563 との間を通って落下する遊技球 B は、第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間、もしくは第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間を通る。このとき、第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間隔は、第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔よりも小さい間隔に設定されるため、第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間と、第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間で、遊技球 B の通り易さが異なっている。

【0092】

遊技領域 PA2 における第 3 の左遊技釘 573 と第 4 の左遊技釘 574 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 571、第 2 の左遊技釘 572、第 3 の左遊技釘 573、および第 4 の左遊技釘 574 のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えて、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間、第 1 の左遊技釘 571 と第 3 の左遊技釘 573 との間、第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間のうちいずれかを通る。このとき、第 1 の左遊技釘 571 と第 3 の左遊技釘 573 との間隔は、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間隔および第 1 の左遊技釘 571（第 2 の左遊技釘 572）と第 4 の左遊技釘 574 との間隔よりも大きい間隔に設定されるため、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間と、第 1 の左遊技釘 571 と第 3 の左遊技釘 573 との間と、第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間で、遊技球 B の通り易さが異なっている。

30

【0093】

一方、遊技領域 PA2 における第 4 の左遊技釘 574 と第 5 の左遊技釘 575 との間を通って落下する遊技球 B は、第 1 の左遊技釘 571、第 2 の左遊技釘 572、第 4 の左遊技釘 574、および第 5 の左遊技釘 575 のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えて、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間、第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間、第 1 の左遊技釘 571 と第 3 の左遊技釘 573 との間のうちいずれかを通る。このとき、第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間隔は、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間隔および第 2 の左遊技釘 572（第 1 の左遊技釘 571）と第 4 の左遊技釘 574 との間隔よりも大きい間隔に設定されるため、第 1 の左遊技釘 571 と第 2 の左遊技釘 572 との間と、第 2 の左遊技釘 572 と第 5 の左遊技釘 575 との間で、遊技球 B の通り易さが異なっている。

40

50

72と第5の左遊技釘575との間と、第1の左遊技釘571と第3の左遊技釘573との間で、遊技球Bの通り易さが異なっている。

【0094】

そして、遊技領域PA2における第1の左遊技釘571と第2の左遊技釘572との間を通過して落下する遊技球Bは、右方の左側一般入賞口513aを通過して左側一般入賞装置513に入球（入賞）する。一方、遊技領域PA2における第1の左遊技釘571と第3の左遊技釘573との間を通過して落下する遊技球Bは、2つの左側一般入賞装置513, 513の間を落下して、アウト口519に導かれる。また、遊技領域PA2における第2の左遊技釘572と第5の左遊技釘575との間を通過して落下する遊技球Bは、右方の左側一般入賞装置513と第1始動入賞装置514との間を落下して、アウト口519に導かれる。このように、第1～第5の左遊技釘571～575の間隔を変えて、各遊技釘間での遊技球Bの通り易さを異ならせることで、第1～第5の左遊技釘571～575の間を通過する遊技球Bの動きに変化を持たせることが可能になり、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

【0095】

なお、遊技領域PA2における第2下側連釘552の上を落下移動して、当該第2下側連釘552の右下方に落下する遊技球Bは、第3の左遊技釘573と第4の左遊技釘574との間を通過してから、第1の左遊技釘571と第2の左遊技釘572との間、第1の左遊技釘571と第3の左遊技釘573との間、第2の左遊技釘572と第5の左遊技釘575との間のうちいずれかを通る。これにより、第2下側連釘552の右下方に落下する遊技球Bの動きに変化を持たせることが可能になり、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

【0096】

〔右側一般入賞装置の近傍の釘等の配置〕

前述したように、遊技領域PA2の下部右側に、第2始動入賞装置515、大入賞装置516、右側一般入賞装置517、および補助遊技始動ゲート518が配置される。左側一般入賞装置513と同様、右側一般入賞装置517の上部に、遊技領域PA2の下部右側を落下する遊技球が通過可能な右側一般入賞口517aが形成される（図23を参照）。また、遊技領域PA2における右側一般入賞装置517の左上方に第2始動入賞装置515が配置され、右側一般入賞装置517の左下方に大入賞装置516が配置される。第2始動入賞装置515は、第2始動入賞口515aを揺動開閉可能な羽根部材515w（図23を参照）を有する開閉型入賞装置である。また、遊技領域PA2における右側一般入賞装置517の上方かつ第2始動入賞装置515の右上方に、補助遊技始動ゲート518が配置される。

【0097】

次に、遊技領域PA2における右側一般入賞口517aの上方に配置される釘111について、図23を参照して説明する。遊技領域PA2における右側一般入賞口517aの左側縁部の上方近傍に、第1の右遊技釘581が配置される。遊技領域PA2における右側一般入賞口517aの右側縁部の上方近傍に、第1の右遊技釘581と同じ高さ位置で第2の右遊技釘582が配置される。遊技領域PA2における第1の右遊技釘581の上方に、第3の右遊技釘583が配置される。遊技領域PA2における第2の右遊技釘582の上方に、第3の右遊技釘583と同じ高さ位置で第4の右遊技釘584が配置される。第1～第4の右遊技釘581～584はそれぞれ、1本の釘（111）から構成される。

【0098】

遊技領域PA2における第4の右遊技釘584の上方に、補助遊技始動ゲート518に設けられたガイド部518gの下流端部に近接して上流釘591が配置される。上流釘591は、1本の釘（111）から構成される。

【0099】

遊技領域PA2における第3の右遊技釘583の上方かつ上流釘591の左下方に、下

10

20

30

40

50

流側連釘 592 が配置される。下流側連釘 592 は、水平に対し左下方に傾斜する方向（第2始動入賞装置 515 に向かう方向）に直線的に並ぶ4本の釘（111）から構成される。下流側連釘 592 は、遊技球 B がこの4本の釘（111）の上を落下移動するようにガイドする。下流側連釘 592 における右上端部に位置する釘は、第3の右遊技釘 583 の上方近傍に配置され、下流側連釘 592（右上端部に位置する釘）と第3の右遊技釘 583 との間を遊技球 B が通れないようになっている。

【0100】

なお、下流側連釘 592 を構成する釘同士の間隔は、遊技球 B が通らず、遊技球 B が乗ることもない所定の間隔（例えば、遊技球 B の半径以下の間隔）に設定される。また、上流釘 591 と下流側連釘 592（右上端部に位置する釘）との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。具体例として、上流釘 591 と下流側連釘 592（右上端部に位置する釘）との間隔は 11.25 mm に設定される。10

【0101】

また、遊技領域 PA2 における上流釘 591 と第4の右遊技釘 584 との間に、上流釘 591 と下流側連釘 592 との間を通って落下する遊技球 B が上流釘 591 と第4の右遊技釘 584 との間を通るのを規制する規制釘 585 が配設される。規制釘 585 は、1 本の釘（111）から構成される。そして、遊技領域 PA2 における上流釘 591 と下流側連釘 592 との間を通って落下する遊技球 B は、上流釘 591、下流側連釘 592、第3の右遊技釘 583、第4の右遊技釘 584、および規制釘 585 のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えて第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584 との間を通ってから、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582 との間、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583 との間、第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584 との間のうちいずれかを通るように構成される。20

【0102】

第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582 との間隔は 12.00 mm に設定される。第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582 との間隔よりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583 との間隔は 11.50 mm に設定される。第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582 との間隔よりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584 との間隔は 11.50 mm に設定される。30

【0103】

第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584 との間隔は 11.50 mm に設定される。第3の右遊技釘 583 と規制釘 585 との間隔は、遊技球 B が通過し得る所定の間隔（例えば、遊技球 B の直径よりも大きくて、遊技球 B の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔）に設定される。具体例として、第3の右遊技釘 583 と規制釘 585 との間隔は 11.75 mm に設定される。40

【0104】

下流側連釘 592 の左下方には、第2始動入賞装置 515 における第2始動入賞口 515a を開いた（開放位置に揺動変位する）状態の羽根部材 515w が配置されるようになっている。第2始動入賞装置 515 の羽根部材 515w よりも低い位置に、第1の右遊技釘 581 が配置され、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583 との間を通って落下する遊技球 B が、第2始動入賞口 515a を開いた状態の羽根部材 515w の上を落下移50

動して第2始動入賞装置515に入球(入賞)しないようになっている。

【0105】

前述したように、遊技領域PA2における上流釘591と下流側連釘592との間を通して落下する遊技球Bは、上流釘591、下流側連釘592、第3の右遊技釘583、第4の右遊技釘584、および規制釘585のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えて第3の右遊技釘583と第4の右遊技釘584との間を通してから、第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間、第1の右遊技釘581と第3の右遊技釘583との間、第2の右遊技釘582と第4の右遊技釘584との間のうちいずれかを通過する。このとき、第1の右遊技釘581と第3の右遊技釘583との間隔は、第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間隔よりも小さい間隔に設定されるため、第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間と、第1の右遊技釘581と第3の右遊技釘583との間で、遊技球Bの通り易さが異なっている。また、第2の右遊技釘582と第4の右遊技釘584との間隔は、第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間隔よりも小さい間隔に設定されるため、第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間と、第2の右遊技釘582と第4の右遊技釘584との間で、遊技球Bの通り易さが異なっている。10

【0106】

そして、遊技領域PA2における第1の右遊技釘581と第2の右遊技釘582との間を通して落下する遊技球Bは、右側一般入賞口517aを通過して右側一般入賞装置517に入球(入賞)する。一方、遊技領域PA2における第1の右遊技釘581と第3の右遊技釘583との間を通して落下する遊技球Bは、右側一般入賞装置517と第2始動入賞装置515との間を落下して、大入賞装置516に入球(入賞)するか、もしくはアウト口519に導かれる。また、遊技領域PA2における第2の右遊技釘582と第4の右遊技釘584との間を通して落下する遊技球Bは、右側一般入賞装置517の右方を落下して、アウト口519に導かれる。このように、第1～第4の右遊技釘581～584の間隔を変えて、各遊技釘間での遊技球Bの通り易さを異ならせることで、第1～第4の右遊技釘581～584の間を通過する遊技球Bの動きに変化を持たせることが可能になり、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。20

【0107】

[第2実施形態における特徴構成]

30

[ガイド部材の近傍の釘等の特徴構成]

本実施形態において、ガイド部材526の傾斜面527の傾斜角度は、第1下側連釘551が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定され、傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bが、遊技領域PA2における第1下側連釘551と第1上側連釘561との間を通して落下移動することができるよう構成される。このように、ガイド部材526の傾斜面527の傾斜角度は、第1下側連釘551が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定されるため、遊技球Bが傾斜面527から深く落ち込む形で第1下側連釘551の上に落下する。そのため、ガイド部材526の傾斜面527から第1下側連釘551の上方に飛び出して落下する遊技球Bが第1下側連釘551の上で弾み易くなったり、傾斜面527と第1下側連釘551との傾斜角度の差により遊技球Bの落下移動速度が変化したりすることで、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bの動きに変化を持たせることができ、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。40

【0108】

また、第1上側連釘561は、遊技領域PA2における第1下側連釘551の上方に略平行に設けられ、第1下側連釘551と第1上側連釘561との間隔は、遊技球Bの直径よりも大きく遊技球Bの直径の2倍よりも小さい間隔に設定される。これにより、ガイド部材526の傾斜面527から右下方に落下する遊技球Bは、第1下側連釘551を構成するいずれかの釘111と、第1上側連釘561を構成するいずれかの釘111とに当接して上下に弾むように、第1下側連釘551と第1上側連釘561との間を落下移動する50

ことが可能になる。このようにして、ガイド部材 526 の傾斜面 527 から右下方に落下する遊技球 B の動きに変化を持たせることができが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

【0109】

[左側一般入賞装置の近傍の釘等の特徴構成]

本実施形態において、第3の左遊技釘 573 と第4の左遊技釘 574との間、もしくは第4の左遊技釘 574 と第5の左遊技釘 575との間を通って落下する遊技球は、第1の左遊技釘 571、第2の左遊技釘 572、第3の左遊技釘 573、第4の左遊技釘 574、および第5の左遊技釘 575のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えることにより、第1の左遊技釘 571 と第2の左遊技釘 572との間を通ることが可能となるように構成される。これにより、第1～第5の左遊技釘 571～575の間を通る遊技球 B の動きに変化を持たせることができが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

10

【0110】

また、第3の左遊技釘 573 と第4の左遊技釘 574との間隔は、第1の左遊技釘 571 と第2の左遊技釘 572との間隔よりも大きい間隔に設定され、第4の左遊技釘 574 と第5の左遊技釘 575との間隔は、第3の左遊技釘 573 と第4の左遊技釘 574との間隔よりも大きくて、遊技球の直径に半径を加えた長さより小さい間隔に設定される。このように、第1～第5の左遊技釘 571～575の間隔を変えて、各遊技釘間での遊技球 B の通り易さを異ならせることで、第1～第5の左遊技釘 571～575の間を通る遊技球 B の動きに変化を持たせることができが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

20

【0111】

[右側一般入賞装置の近傍の釘等の特徴構成]

本実施形態において、第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584との間を通って落下する遊技球は、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582との間、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583との間、第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584との間のうちいずれかを通るように構成され、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583との間隔は、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582との間隔よりも小さい間隔に設定され、第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584との間隔は、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582との間隔よりも小さい間隔に設定される。このように、第1～第4の右遊技釘 581～584の間隔を変えて、各遊技釘間での遊技球 B の通り易さを異ならせることで、第1～第4の右遊技釘 581～584の間を通る遊技球 B の動きに変化を持たせることができが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

30

【0112】

また、遊技領域 PA2 における上流釘 591 と第4の右遊技釘 584との間に、遊技球 B が上流釘 591 と第4の右遊技釘 584との間を通るのを規制する規制釘 585 が配設される。これにより、上流釘 591 と下流側連釘 592との間を通って落下する遊技球 B が全て第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584との間を通るため、遊技球 B が右側一般入賞装置 517 に入球(入賞)する期待感を過度に低下させることなく、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

40

【0113】

また、上流釘 591 と下流側連釘 592との間を通って落下する遊技球 B は、規制釘 585 に当接して落下する向きを変えて第3の右遊技釘 583 と第4の右遊技釘 584との間を通ってから、第1の右遊技釘 581 と第2の右遊技釘 582との間、第1の右遊技釘 581 と第3の右遊技釘 583との間、第2の右遊技釘 582 と第4の右遊技釘 584との間のうちいずれかを通ることが可能となるように構成される。これにより、第1～第4の右遊技釘 581～584の間を通る遊技球 B の動きに、より多くの変化を持たせることができが可能になり、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

50

【0114】

[遊技盤の変形例]

なお、上述の各実施形態に係る遊技盤において、遊技盤の前面より突出した突出面が形成されるようにしてもよい。そこで、図24～図25を追加参照して、第2実施形態に係る遊技盤500に適用した場合の変形例について説明する。図24に示すように、遊技領域PA2における右方の左側一般入賞装置513の上側周辺部で、第1～第5の左遊技釘571～575を除いた部分に、突出面602を有する突出面構成部材601を取り付けることが可能である。すなわち、遊技領域PA2における、第1～第5の左遊技釘571～575のガイドによって遊技球Bが右方の左側一般入賞装置513に入賞可能な入賞可能経路を含む部分の領域に、突出面構成部材601を取り付けることが可能である。

10

【0115】

突出面構成部材601は、図24～図25に示すように、樹脂材料を用いて平板状に形成され、ネジ等の固定部材を用いて、遊技領域PA2の前面より突出するように、ベース部材501の前面に重ねて取り付け固定される。突出面構成部材601の前面に、平面状の突出面602が形成される。また、突出面構成部材601の縁部全体に、突出面602から遊技領域PA2の前面に向けて緩やかに傾斜する傾斜面603が形成される。この傾斜面603に沿って、遊技球Bが遊技領域PA2の前面と突出面構成部材601の突出面602との間を滑らかに移動できるようになっている。

【0116】

なお、突出面構成部材601の中央上部は、遊技領域PA2における第1～第5の左遊技釘571～575に囲まれた部分の領域に配置される。突出面構成部材601の中央上部の左上端部は、第3の左遊技釘573と第4の左遊技釘574との間の領域まで延びて配置される。突出面構成部材601の中央上部の右上端部は、第4の左遊技釘574と第5の左遊技釘575との間の領域まで延びて配置される。突出面構成部材601の中央上部左側は、第1の左遊技釘571と第3の左遊技釘573との間の領域を跨いで配置される。突出面構成部材601の中央上部右側は、第2の左遊技釘572と第5の左遊技釘575との間の領域を跨いで配置される。

20

【0117】

前述したように、ベース部材501における遊技領域PA2の前面と、複層ガラス5aの後面との間には、図25(a)に示すように、遊技領域PA2の前面において遊技球Bが落下可能な遊技空間S2が形成される。一方、突出面構成部材601の前面に形成された突出面602と、複層ガラス5aの後面との間には、図25(b)に示すように、突出面構成部材601の分だけ遊技空間S2よりも前後方向の幅が狭く、突出面構成部材601の突出面602において遊技球Bが落下可能な突出遊技空間S2aが形成される。なお、遊技領域PA2の前面から釘111の頭部111b(胴部111aとの境界部)までの長さは、例えば16.80mmに設定される。また、突出面構成部材601の厚さは、例えば5.00mmに設定される。

30

【0118】

遊技領域PA2における第2上側連釘562と第3上側連釘563との間を通って落下する遊技球Bは、第3の左遊技釘573と第4の左遊技釘574との間、もしくは第4の左遊技釘574と第5の左遊技釘575との間を通る。このとき、遊技領域PA2における第2上側連釘562と第3上側連釘563との間を通って落下する遊技球Bは、第3の左遊技釘573と第4の左遊技釘574との間、もしくは第4の左遊技釘574と第5の左遊技釘575との間に到達するまで、遊技空間S2を通って落下することになる。

40

【0119】

遊技領域PA2における第3の左遊技釘573と第4の左遊技釘574との間を通って落下する遊技球Bは、第1の左遊技釘571と第2の左遊技釘572との間、第1の左遊技釘571と第3の左遊技釘573との間、第2の左遊技釘572と第5の左遊技釘575との間のうちいずれかを通る。一方、遊技領域PA2における第4の左遊技釘574と第5の左遊技釘575との間を通って落下する遊技球Bは、第1の左遊技釘571と第2

50

の左遊技釘 572との間、第2の左遊技釘 572と第5の左遊技釘 575との間、第1の左遊技釘 571と第3の左遊技釘 573との間のうちいずれかを通る。このとき、第3の左遊技釘 573と第4の左遊技釘 574との間、もしくは第4の左遊技釘 574と第5の左遊技釘 575との間を通って落下する遊技球 Bは、突出遊技空間 S2aを通って落下することになる。

【0120】

釘 111 がベース部材 501 (遊技領域 PA2) の前面に対して垂直よりも僅かに傾斜している場合、釘 111 の傾斜角度が同じ場合であっても、遊技球 B が遊技空間 S2 を通って落下するときと、遊技球 B が突出遊技空間 S2a を通って落下するときとで、遊技球 B に対する 2 本の釘 111 同士の間隔が変化する。突出面構成部材 601 の有無に拘わらず、釘 111 がベース部材 501 の前面から延びているからである。例えば、第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 とが互いに広く (狭く) なる方向に傾斜している場合、遊技球 B が第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間 (すなわち、突出遊技空間 S2a) を通って落下するとき、遊技領域 PA2 の前面よりも第1の左遊技釘 571 および第3の左遊技釘 573 の先端側に近い突出面構成部材 601 の突出面 602 に沿って落下する。そのため、遊技球 B に対する第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔は、突出面構成部材 601 が取り付けられていない (すなわち、遊技球 B が遊技空間 S2 を通って落下する) 場合よりも広く (狭く) なる。

10

【0121】

ここで、遊技球 B に対する第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔の具体例について述べる。まず前提として、第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔は、両方ともベース部材 501 (遊技領域 PA2) の前面に対して垂直な場合に、12.00mm であるとする。また、ベース部材 501 (遊技領域 PA2) の前面に対して垂直な方向 (法線方向) に対し、真上に傾斜する方向を時計の文字盤に例えて 12 時方向と定義する。また、突出面構成部材 601 の厚さが 5.00mm であるものとする。

20

【0122】

そして、第1の左遊技釘 571 が 11 時方向に 4.00 度、第3の左遊技釘 573 が 12 時方向に 5.00 度だけ傾斜した場合、遊技領域 PA2 の前面近傍における (すなわち、突出面構成部材 601 が取り付けられていない場合における) 第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔 DA1 (図 25 (a) を参照) は、12.22mm となる。一方、突出面構成部材 601 の前面近傍における第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔 DA2 (図 25 (b) を参照) は、12.43mm となる。これにより、第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 とが互いに広くなる方向に傾斜している場合、遊技球 B に対する第1の左遊技釘 571 と第3の左遊技釘 573 との間隔は、突出面構成部材 601 が取り付けられていない場合よりも広くなることがわかる。

30

【0123】

このように、遊技領域 PA2 における右方の左側一般入賞装置 513 の上側周辺部で、第1～第5の左遊技釘 571～575 を除いた部分に、突出面構成部材 601 を取り付けるようにすれば、第1～第5の左遊技釘 571～575 をベース部材 501 (遊技領域 PA2) の前面に対して垂直よりも僅かに傾斜するように設計するだけで、第1～第5の左遊技釘 571～575 の間隔を効果的に変えることができる。そのため、各遊技釘間での遊技球 B の通り易さを異ならせることで、第1～第5の左遊技釘 571～575 の間を通る遊技球 B の動きに変化を持たせることができ、遊技球 B の動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

40

【0124】

上述の変形例において、突出面構成部材 601 の前面に、平面状の突出面 602 が形成されているが、これに限られるものではない。例えば、図 25 (b) の二点鎖線で示すように、突出面構成部材 601 の突出面 602 に、凹面 606 もしくは凸面 607 が形成されてもよい。このようにすれば、第1～第5の左遊技釘 571～575 の間を通る遊技球 B の動きにより複雑な変化を持たせることができ、遊技球 B の動きを多様にして遊

50

技性をより高めることができる。

【0125】

上述の変形例において、突出面構成部材601は、遊技領域PA2における右方の左側一般入賞装置513の上側周辺部に取り付けられているが、これに限られるものではなく、例えば、遊技領域PA2における右側一般入賞装置517の上側周辺部に取り付けられてもよい。また、突出面構成部材は、第2実施形態に係る遊技盤500に限らず、第1実施形態に係る遊技盤100の遊技領域PA1の前面に取り付けられてもよい。

【0126】

上述の変形例において、突出面構成部材601がベース部材501の前面に取り付けられているが、これに限られるものではない。例えば、ベース部材501の遊技領域PA2の前面より突出する突出面部が、ベース部材501の前面側に一体的に形成されるようにしてもよい。

10

【0127】

[変形例における特徴構成]

[突出面構成部材の特徴構成]

上述の変形例において、遊技領域PA2における第1～第5の左遊技釘571～575と重ならない位置に、遊技盤500（ベース部材501）の前面より突出する突出面構成部材601が設けられ、突出面構成部材601の前面（突出面602）と複層ガラス5aの後面とに挟まれた突出遊技空間S2a内を遊技球Bが落下可能に構成される。これにより、第1～第5の左遊技釘571～575を遊技盤500（遊技領域PA2）の前面に対して垂直よりも僅かに傾斜するように設計するだけで、第1～第5の左遊技釘571～575の間隔を効果的に変えることができる。そのため、各遊技釘間での遊技球Bの通り易さを異ならせることで、第1～第5の左遊技釘571～575の間を通り遊技球Bの動きに変化を持たせることができ、遊技球Bの動きを多様にして遊技性をより高めることができる。

20

【0128】

また、突出面構成部材601の縁部に、突出面構成部材601の前面（突出面602）から遊技盤500（遊技領域PA2）の前面に向けて傾斜する傾斜面603が形成される。これにより、傾斜面603に沿って、遊技球Bが遊技盤500（遊技領域PA2）の前面と突出面構成部材601の前面（突出面602）との間を滑らかに移動することができる。

30

【0129】

上述の第2実施形態において、上流釘591は、1本の釘（111）から構成されているが、これに限られるものではない。例えば、上流釘は、水平に対し左下方に傾斜する方向（第2始動入賞装置515に向かう方向）に直線的に並ぶ複数本の釘（111）から構成されてもよい。

【0130】

上述の第2実施形態において、遊技領域PA2における右方の左側一般入賞口513aの上方に、第1～第5の左遊技釘571～575等が配置されているが、これに限られるものではない。例えば、第1実施形態に係る遊技盤100において、遊技領域PA1における3つの左側一般入賞装置113, 113, …うち右方の左側一般入賞口113aの上方に、当該第1～第5の左遊技釘等が配置されてもよい。

40

【0131】

上述の第2実施形態において、遊技領域PA2における右側一般入賞口517aの上方に、第1～第4の右遊技釘581～584等が配置されているが、これに限られるものではない。例えば、第1実施形態に係る遊技盤100において、遊技領域PA1における右側一般入賞装置117に形成された右側一般入賞口（図示せず）の上方に、当該第1～第4の右遊技釘等が配置されてもよい。

【0132】

上述の各実施形態において、各連釘（第1～第4下側連釘151～154、第1～第4

50

上側連釘 161～164、第1～第2下側連釘 551～552、第1～第3上側連釘 561～563、下流側連釘 592) は、例示した本数に限らず、複数本の釘 (111) から構成されればよい。

【0133】

上述の各実施形態において、本発明が適用される弾球遊技機の一例として、ぱちんこ遊技機を例示して説明したが、これに限定されるものではなく、例えば、アレンジボール、雀球遊技機などについても同様に適用し、同様の効果を得ることができる。

【0134】

なお、上述の各実施形態に基づいて、前面側に遊技球を用いた遊技を行う遊技領域が設けられた弾球遊技機の遊技盤であって、前記遊技領域の左側に回転自在に設けられた風車と、前記遊技領域における前記風車の下方に設けられ、水平に対し右下方に傾斜する平面状の傾斜面を有し、前記遊技領域における前記風車の左方を通り落下降する遊技球が前記傾斜面に沿って落下降可能なガイド部材と、前記遊技領域における前記傾斜面の右下方に設けられ、水平に対し右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、前記傾斜面から右下方に落下降する遊技球が当該複数の釘の上を落下降するようにガイドする下側連釘と、前記遊技領域における前記下側連釘の上方かつ前記風車の下方に設けられ、水平に対し右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、前記遊技領域における前記風車の右方を通り落下降する遊技球が当該複数の釘の上を落下降するようにガイドする上側連釘とを備え、前記傾斜面の傾斜角度は、前記下側連釘が直線的に並ぶ方向の傾斜角度よりも緩い角度に設定され、前記傾斜面から右下方に落下降する遊技球が、前記遊技領域における前記下側連釘と前記上側連釘との間を通り落下降することができるよう構成されることを特徴とする弾球遊技機の遊技盤が得られる。

10

20

30

40

【0135】

上述の遊技盤において、前記上側連釘は、前記遊技領域における前記下側連釘の上方に略平行に設けられ、前記下側連釘と前記上側連釘との間隔は、遊技球の直径よりも大きく遊技球の直径の2倍よりも小さい間隔に設定される。

【0136】

また、上述の各実施形態に基づいて、前面側に遊技球を用いた遊技を行う遊技領域が設けられた弾球遊技機の遊技盤であって、前記遊技領域に設けられ、遊技球が通過可能な入賞口を有する入賞装置と、前記遊技領域における前記入賞口の左側縁部の上方に配設された第1の遊技釘と、前記遊技領域における前記入賞口の右側縁部の上方に配設された第2の遊技釘と、前記遊技領域における前記第1の遊技釘の上方に配設された第3の遊技釘と、前記遊技領域における前記第2の遊技釘の上方に配設された第4の遊技釘とを備え、前記遊技領域における前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を遊技球が通ることが可能であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通り落下降する遊技球は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間、前記第2の遊技釘と前記第4の遊技釘との間のうちいずれかを通りるように構成され、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間隔は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔よりも小さい間隔であり、前記第2の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔よりも小さい間隔であることを特徴とする弾球遊技機の遊技盤が得られる。

40

【0137】

上述の遊技盤において、前記入賞装置が前記遊技領域の右側に設けられ、前記遊技領域における前記第4の遊技釘の上方に配設された上流釘と、前記遊技領域における前記第3の遊技釘の上方かつ前記上流釘の左下方に配設され、水平に対し左下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、遊技球が当該複数の釘の上を落下降するようにガイドする下流側連釘と、前記遊技領域における前記上流釘と前記第4の遊技釘との間に配設され、遊技球が前記上流釘と前記第4の遊技釘との間を通りのを規制する規制釘とを備え、前記遊技領域における前記上流釘と前記下流側連釘との間を遊技球が通ることが可能であり、前記上流釘と前記下流側連釘との間を通り落下降する遊技球は、前記規制釘

50

に当接して落下する向きを変えて前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間を通ってから、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間、前記第2の遊技釘と前記第4の遊技釘との間のうちいずれかを通ることが可能となるように構成される。

【0138】

また、上述の各実施形態に基づいて、前面側に遊技球を用いた遊技を行う遊技領域が設けられた弾球遊技機の遊技盤であって、前記遊技領域の左側に設けられた遊技球が通過可能な入賞口を有する入賞装置と、前記遊技領域における前記入賞口の左側縁部の上方に配設された第1の遊技釘と、前記遊技領域における前記入賞口の右側縁部の上方に配設された第2の遊技釘と、前記遊技領域における前記第1の遊技釘の左上方に配設された第3の遊技釘と、前記遊技領域における前記第1の遊技釘の右上方かつ前記第2の遊技釘の左上方に配設された第4の遊技釘と、前記遊技領域における前記第2の遊技釘の右上方に配設された第5の遊技釘と、前記遊技領域における前記第3の遊技釘の上方に配設され、水平に対し右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、遊技球が当該複数の釘の上を落下移動するようにガイドする上流側連釘と、前記遊技領域における前記第5の遊技釘の上方かつ前記上流側連釘の右下方に配設され、水平に対し右下方に傾斜する方向に直線的に並ぶ複数の釘を有して構成され、遊技球が当該複数の釘の上を落下移動するようにガイドする下流側連釘とを備え、前記遊技領域における前記上流側連釘と前記下流側連釘との間を遊技球が通ることが可能であり、前記上流側連釘と前記下流側連釘との間を通って落下する遊技球は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通り、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通って落下する遊技球は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間、前記第1の遊技釘と前記第3の遊技釘との間、前記第2の遊技釘と前記第5の遊技釘との間のうちいずれかを通るように構成され、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間、もしくは前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間を通って落下する遊技球は、前記第1の遊技釘、前記第2の遊技釘、前記第3の遊技釘、前記第4の遊技釘、および前記第5の遊技釘のうち少なくともいずれかに当接して落下する向きを変えることにより、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間を通ることが可能であり、前記上流側連釘と前記下流側連釘との間隔は、遊技球の直径よりも大きくて、遊技球の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔であり、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔は、遊技球の直径よりも大きい間隔であり、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔は、前記第1の遊技釘と前記第2の遊技釘との間隔よりも大きい間隔であり、前記第4の遊技釘と前記第5の遊技釘との間隔は、前記第3の遊技釘と前記第4の遊技釘との間隔よりも大きくて、遊技球の直径に半径を加えた長さよりも小さい間隔であることを特徴とする弾球遊技機の遊技盤が得られる。

【0139】

また、上述の各実施形態に基づいて、前面側に遊技球を用いた遊技を行うための入賞装置および複数の遊技釘を設けた遊技領域を有する遊技盤と、前記遊技領域が前方を向くように前記遊技盤を保持する枠部材と、前記枠部材に保持された前記遊技盤の前方を所定間隔を置いて覆って前記枠部材に取り付けられ、前方から前記遊技領域を視認可能な板状の視認部材とを備え、前記遊技盤の前記遊技領域の前面において前記視認部材の後面との間に形成される遊技空間内を、前記遊技釘の案内の下で遊技球を落下移動させて前記入賞装置へ入賞させる遊技を行うようになっており、前記遊技釘は、前記遊技盤の前面から前記遊技空間内に突出して前記視認部材の後面近傍まで延びて設けられ、前記遊技領域における前記遊技釘と重ならない位置に、前記遊技盤の前面より突出する突出面部が設けられており、前記突出面部の前面と前記視認部材の後面とに挟まれた突出遊技空間内を遊技球が落下可能に構成されたことを特徴とする弾球遊技機が得られる。

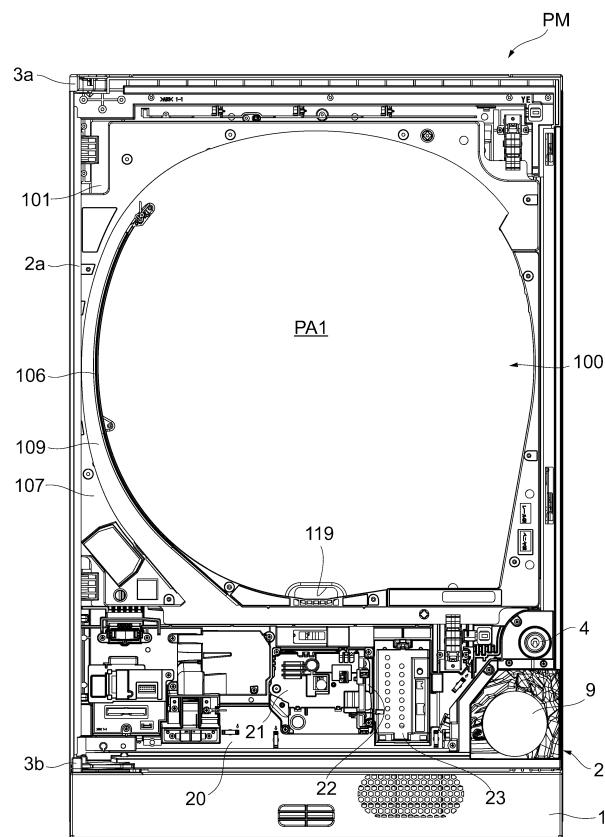
【符号の説明】

【0140】

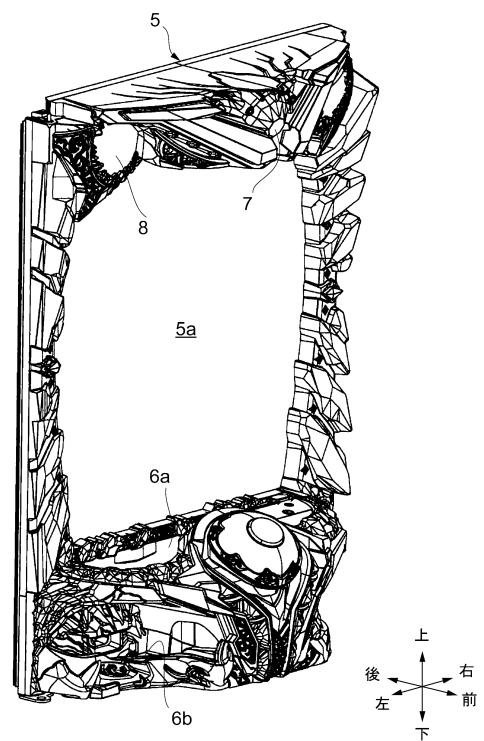
P A 1	遊技領域（第1実施形態）	
P A 2	遊技領域（第2実施形態）	
1	外枠	
2	前枠（枠部材）	
5	ガラス枠（5 a 複層ガラス（視認部材））	
1 0 0	遊技盤（第1実施形態）	
1 1 1	釘（1 1 1 a 胴部、1 1 1 b 頭部）	
1 1 2	風車	
1 1 3	左側一般入賞装置（1 1 3 a 左側一般入賞口）	
1 1 4	第1始動入賞装置（1 1 4 a 第1始動入賞口）	10
1 1 5	第2始動入賞装置	
1 1 6	大入賞装置	
1 1 7	右側一般入賞装置	
1 1 8	補助遊技始動ゲート	
1 5 1	第1下側連釘	
1 5 2	第2下側連釘	
1 5 3	第3下側連釘	
1 5 4	第4下側連釘	
1 6 1	第1上側連釘	
1 6 2	第2上側連釘	20
1 6 3	第3上側連釘	
1 6 4	第4上側連釘	
2 0 0	センター飾り	
3 0 0	第1入賞ユニット	
3 0 1	ガイド部材	
3 0 2	傾斜面	
5 0 0	遊技盤（第2実施形態）	
5 1 3	左側一般入賞装置（5 1 3 a 左側一般入賞口）	
5 1 4	第1始動入賞装置	
5 1 5	第2始動入賞装置（5 1 5 a 第2始動入賞口、5 1 5 w 羽根部材）	30
5 1 6	大入賞装置	
5 1 7	右側一般入賞装置（5 1 7 a 右側一般入賞口）	
5 1 8	補助遊技始動ゲート	
5 2 0	センター飾り	
5 2 6	ガイド部材	
5 2 7	傾斜面	
5 5 1	第1下側連釘	
5 5 2	第2下側連釘	
5 6 1	第1上側連釘	
5 6 2	第2上側連釘（上流側連釘）	40
5 6 3	第3上側連釘（下流側連釘）	
5 7 1	第1の左遊技釘	
5 7 2	第2の左遊技釘	
5 7 3	第3の左遊技釘	
5 7 4	第4の左遊技釘	
5 7 5	第5の左遊技釘	
5 7 6	緩衝釘	
5 8 1	第1の右遊技釘	
5 8 2	第2の右遊技釘	
5 8 3	第3の右遊技釘	50

- 5 8 4 第4の右遊技釘
 5 8 5 規制釘
 5 9 1 上流釘
 5 9 2 下流側連釘
 6 0 1 突出面構成部材(突出面部)
 6 0 2 突出面
 6 0 3 傾斜面

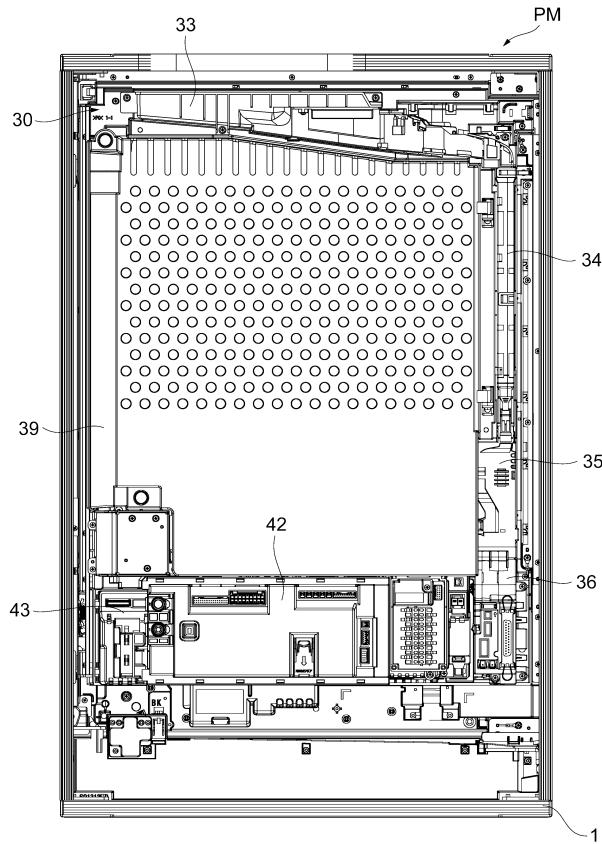
【図1】



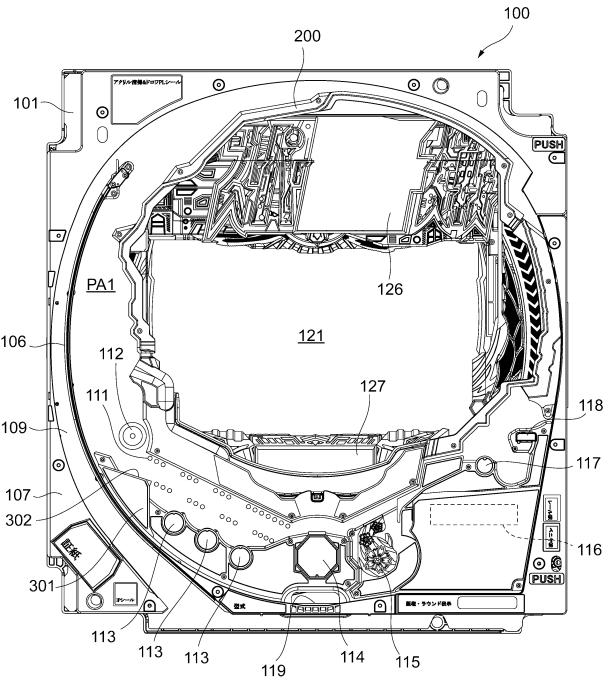
【図2】



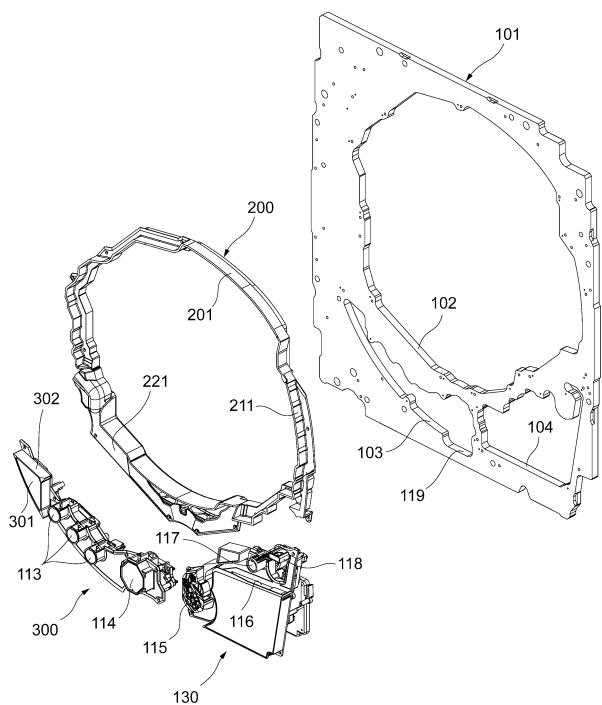
【図3】



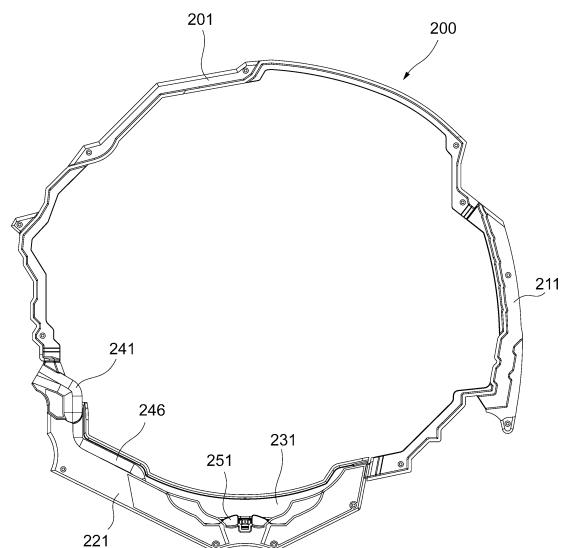
【図4】



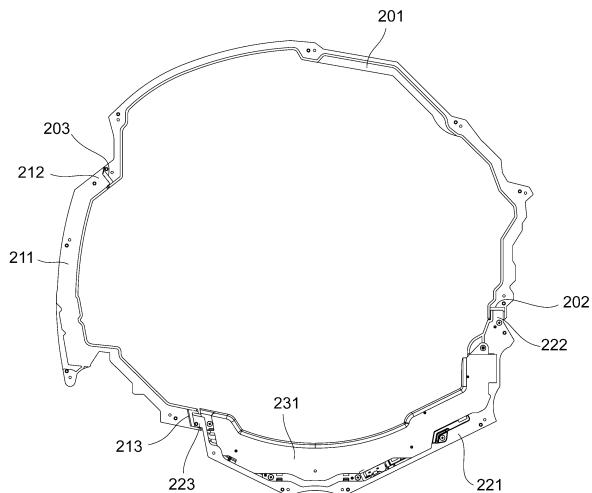
【図5】



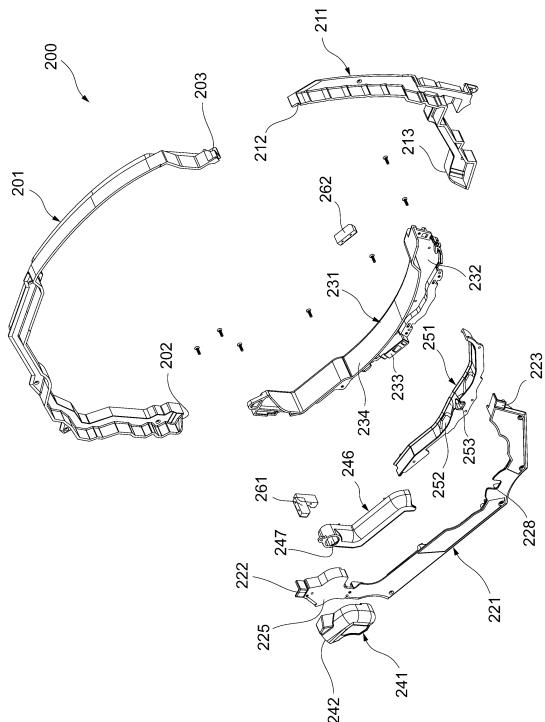
【図6】



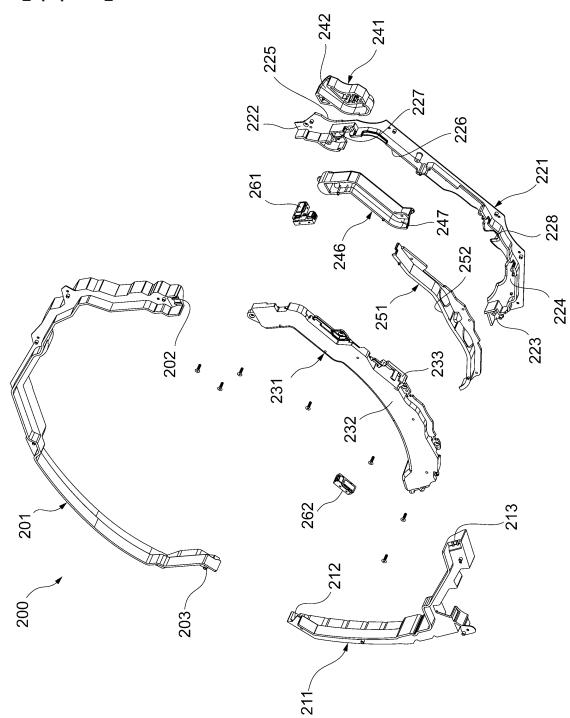
【図7】



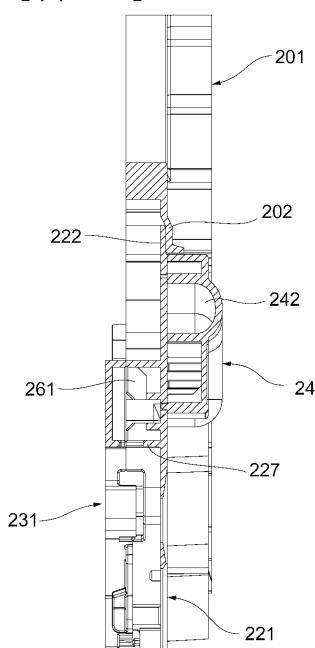
【 四 8 】



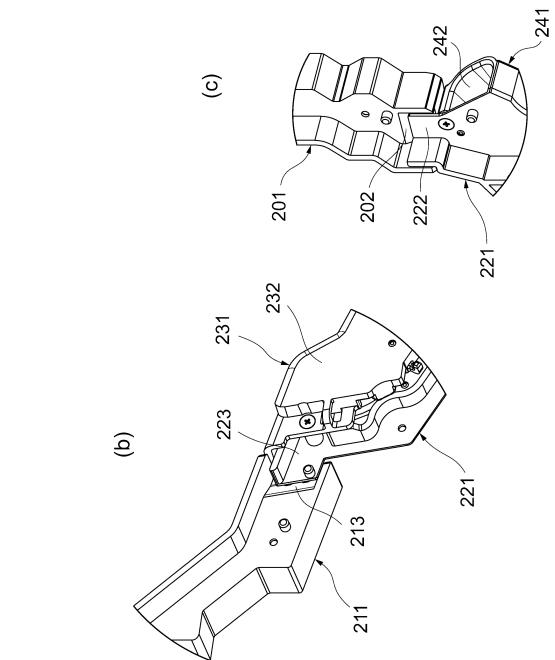
【図9】



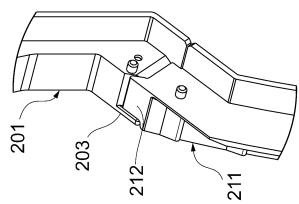
【図10】



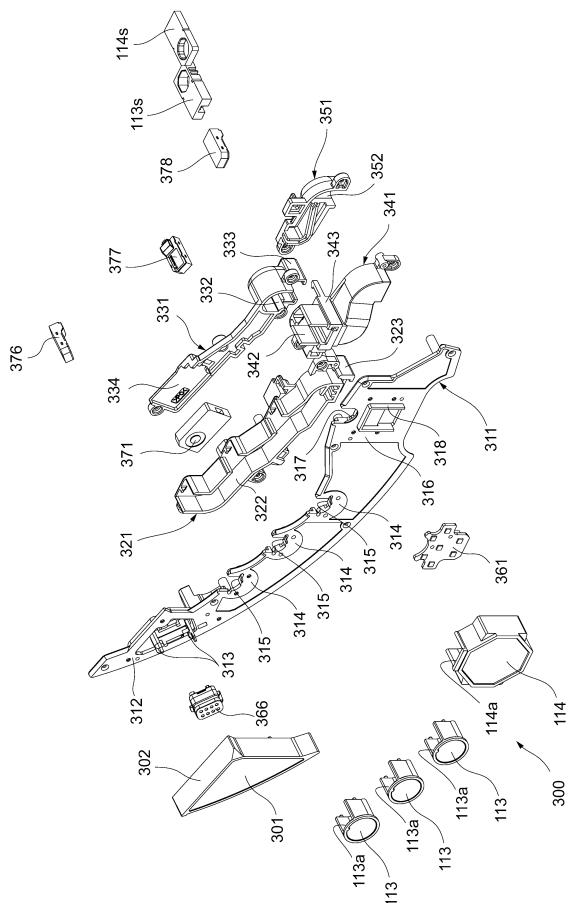
【図11】



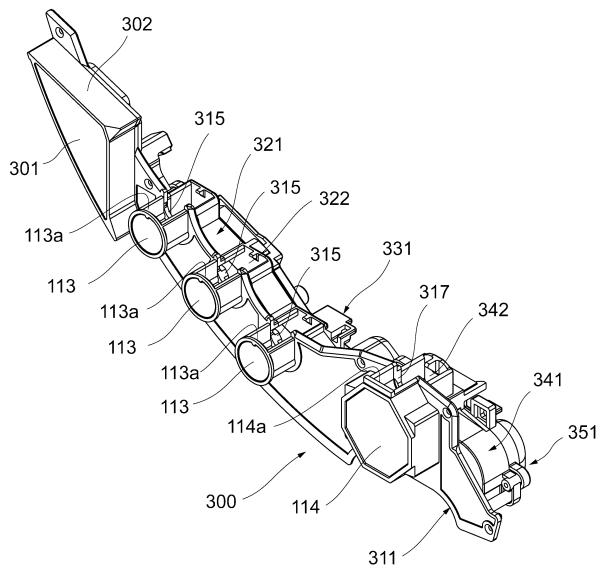
(a)



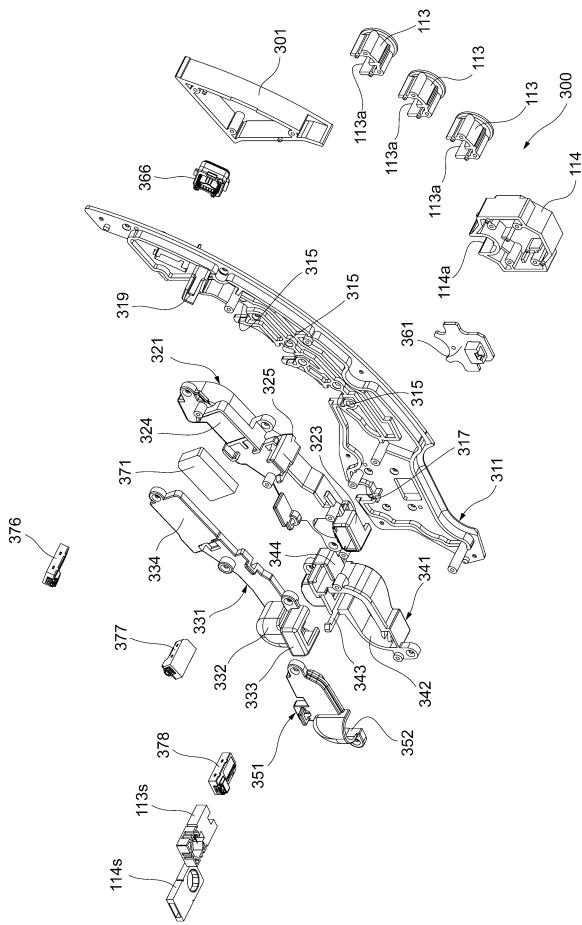
【図13】



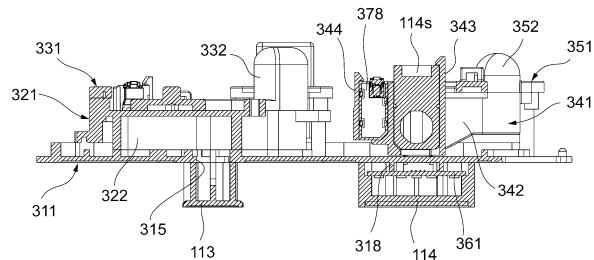
【図12】



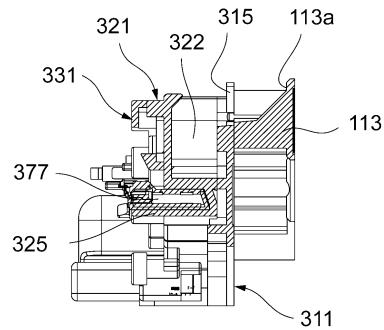
【図14】



【図15】

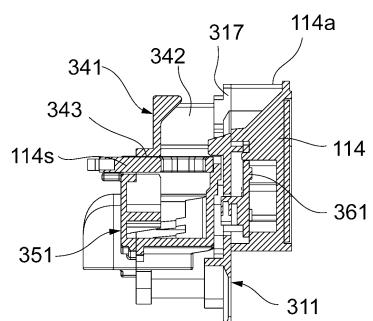


【図16】

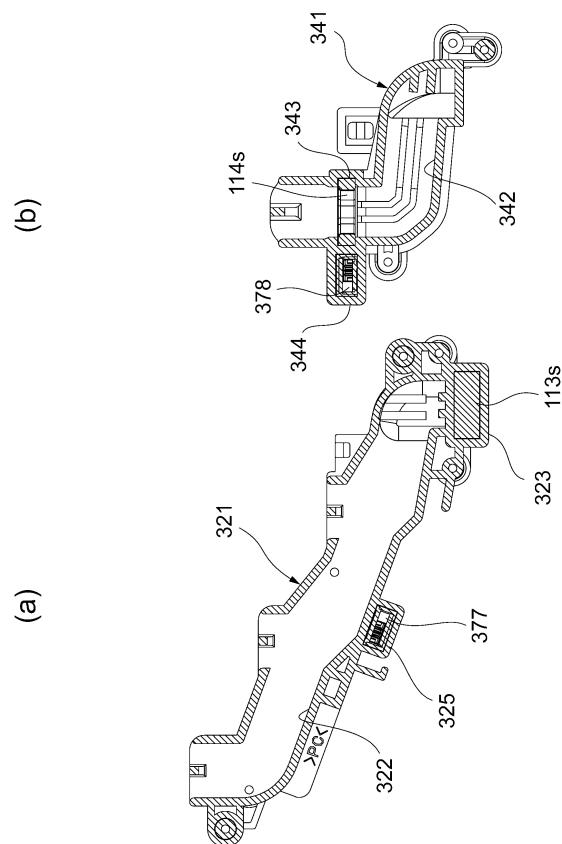


(a)

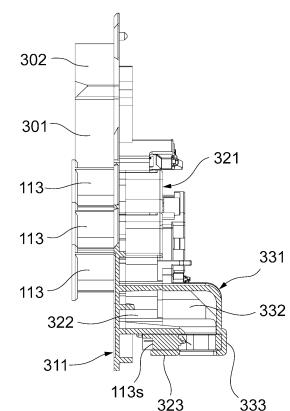
(b)



【図17】

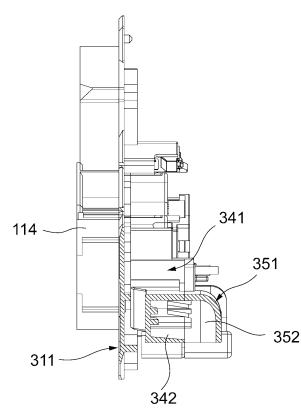


【図18】

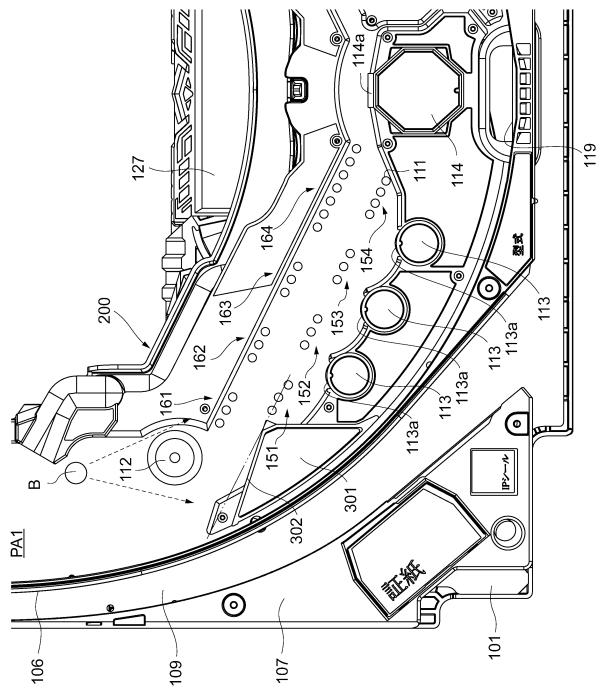


(a)

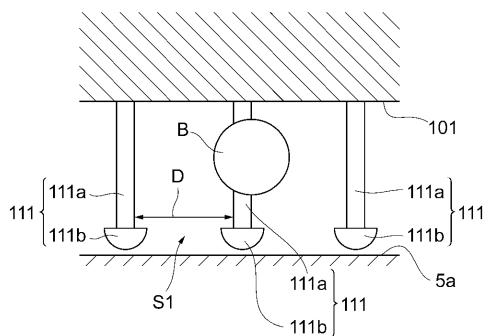
(b)



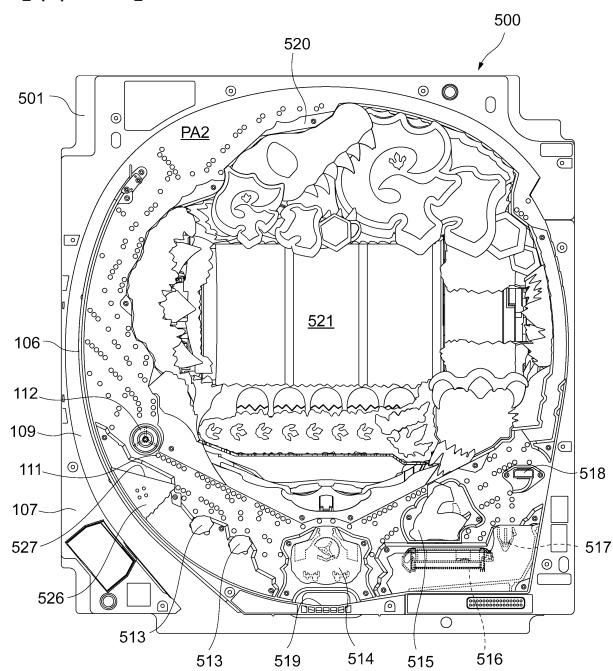
【図19】



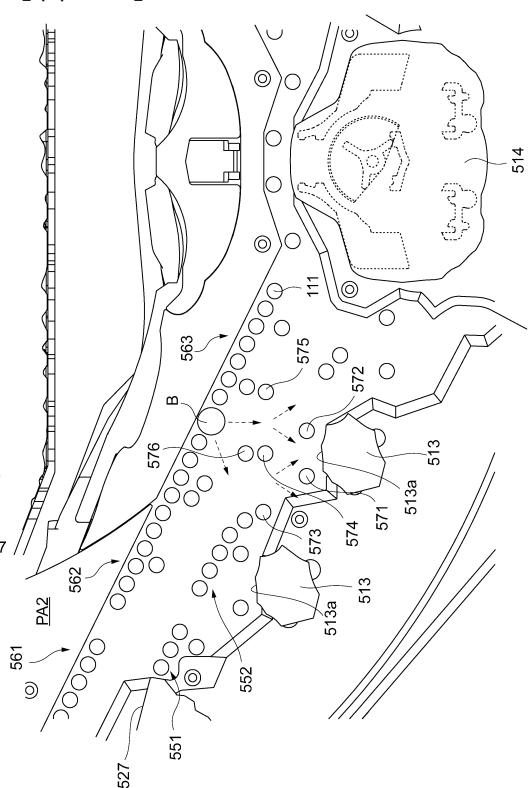
【図20】



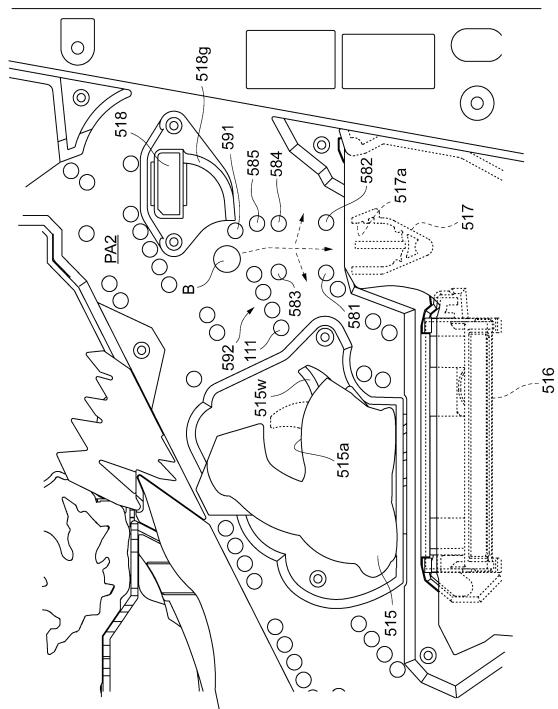
【図21】



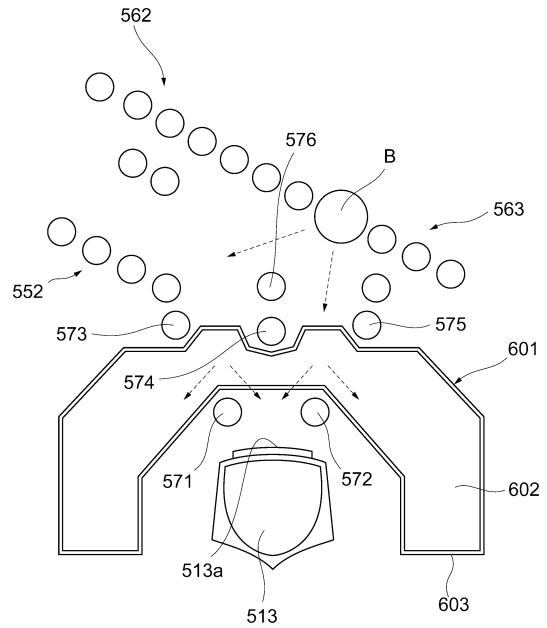
【図22】



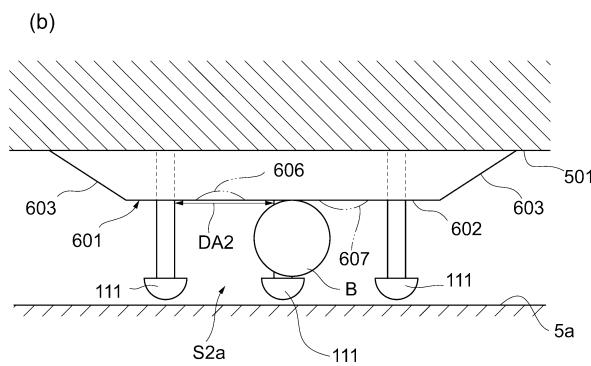
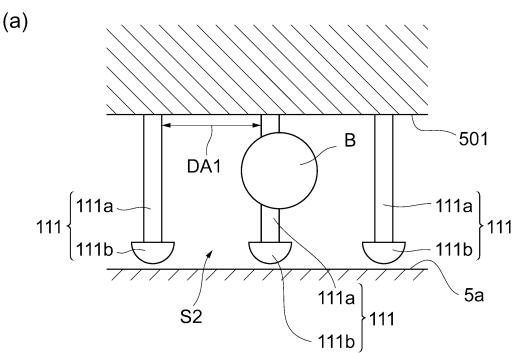
【図23】



【図24】



【図25】



フロントページの続き

(72)発明者 小野 博司
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 田中 崇二郎
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 工藤 朗
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 吉崎 聰
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 波入 和知
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 江藤 光輝
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

(72)発明者 三宅 重夫
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号サンシャイン60 サミー株式会社内

審査官 堀 圭史

(56)参考文献 特開2014-221331(JP, A)
特開2007-260133(JP, A)
特開2013-056039(JP, A)
「スーパーロボット対戦OG」, パチンコ必勝本CLIMAX2016年5月号, 株式会社綜合図書
, 2016年 5月 1日, p. 18, 左上の写真を参照

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 63 F 7 / 02